

第48回
府中市市政世論調査
(概要版)



平成28年
府中市

< 目 次 >

府中市市政世論調査について	1
回答者の属性	2
【住み心地】について	3
■府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
■身近な住まいの環境についての率直な感想	4
【生活の満足度】について	5
■現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
■今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に対する関心度】について	7
■市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【食育】について	10
■朝食を食べる日が週に何日あるか	10
■朝食を食べない理由	10
■食事は主に誰と食べるか	11
■食育に関して重要だと思うこと	11
【インフラマネジメント】について	12
■インフラの維持管理に対する現状や課題についての関心度	12
■「府中市インフラマネジメント計画」の公表を知っているか	12
■安全なインフラを提供していくための方策に対する考え	13
【府中市都市サイン計画】について	14
■案内図、施設誘導等のサインが設置されていることを知っているか	14
■施設等を訪れる際にサインを利用するか	14
■サインは必要だと思うか	15
■施設を訪れる際に最も利用する確認手段	15
【狭あい道路拡幅整備の促進に係る、新たな施策の検討】について	16
■建築時に道路の中心から2mの後退の必要があることを知っているか	16
■狭あい道路拡幅整備事業を知っているか	16
■後退用地の寄附と公費での道路整備について	17
■除去費用の一部に助成金を交付していることについて	17
■新たな取り組みとして有効だと思うもの	17
■行政はどのような施策をとるべきと思うか	18
■防災機能の改善を図るための施策として有効だと思うもの	18

【投票環境の向上】について	19
■期日前投票・不在者投票の内容を知っているか	19
■投票所の環境改善のため希望するもの	19
■若者の投票率向上のために行うべき取り組み	20
【市民協働の推進】について	20
■「協働」という言葉を知っているか	20
■「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を知っているか	21
■「市民協働都市宣言」を知っているか	21
■「協働によるまちづくり」をどのように思うか	22
■「協働によるまちづくり」で市が力を入れるべきこと	22
【パートナーに対する暴力、人権侵害】について	23
■パートナーの行為に対して実感に近いもの	23
■暴力があったときの対応の仕方について	23
■身体的、社会的、経済的暴力を受けたことがあるか	24
■パートナーからの暴力について、だれかに相談したか	25
■パートナーからの暴力について、だれ(どこ)に相談したか	25
■パートナーからの暴力について、相談しなかった理由	25
【空家等対策】について	26
■「措置法」の施行を知っているか	26
■空家等がもたらす問題は何か	26
■空家となる原因は何か	27
■空家等の管理に、行政がどこまで介入すべきか	27
【大気環境】について	28
■市の大気測定を知っているか	28
■測定結果の公表について	28
■測定項目について	29
■測定の必要性について	29
【府中基地跡地留保地の活用】について	30
■府中基地跡地留保地の存在を知っているか	30
■最適な活用方法として望ましいもの	30

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第48回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様のお考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「食育」「インフラマネジメント」「都市サイン計画」「狭あい道路拡幅整備」「投票環境」「市民協働の推進」「パートナーに対する暴力等」「空家等対策」「大気環境」「府中基地跡地留保地の活用」についてお聞きしました。

本書は、調査結果の一部をまとめた概要版です。

ご協力いただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。

調査の方法

調査の地域	：府中市全域
調査対象者	：府中市在住の満20歳以上の男女
標本数	：1500人
抽出方法	：地点を用いた二段抽出法 (住民基本台帳の登録人口を11の地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法)
調査方法	：郵送法(郵送配布、郵送・個別訪問回収)
調査期間	：平成28年5月12日(木)～平成28年7月10日(日)
有効回収数(率)	：996(66.4%)

調査の内容

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1. 住み心地 | 9. 都市サイン計画 |
| 2. 住まいの環境 | 10. 狭あい道路拡幅整備の促進に係る、
新たな施策の検討 |
| 3. 生活の満足度 | 11. 投票環境の向上 |
| 4. 定住意向 | 12. 市民協働の推進 |
| 5. 市政に関する関心度 | 13. パートナーに対する暴力、人権侵害 |
| 6. 市への要望
〈第48回特設設問〉 | 14. 空家等対策 |
| 7. 食育 | 15. 大気環境 |
| 8. インフラマネジメント | 16. 府中基地跡地留保地の活用 |

注意事項 本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

(1) 百分率(%)の計算は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。このため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答(2つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると100%を超える場合があります。

(2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。

回答者の属性

有効回答 996 件の属性別回答者数と構成比を表します。

[性別]

	回答者数(人)	構成比(%)
男性	487	48.9
女性	495	49.7
(無回答)	14	1.4

[年齢]

	回答者数(人)	構成比(%)
20~29歳	81	8.1
30~39歳	163	16.4
40~49歳	256	25.7
50~59歳	168	16.9
60~69歳	157	15.8
70歳以上	158	15.9
(無回答)	13	1.3

[職業]

	回答者数(人)	構成比(%)
事務職	118	11.8
専門・技術職	204	20.5
労務・サービス職	91	9.1
役員・管理職	65	6.5
商・工・サービス業	33	3.3
自由業	26	2.6
農林漁業	2	0.2
内職・パート・フリーター	124	12.4
主婦(家事専業)	161	16.2
学生	10	1.0
無職	134	13.5
(無回答)	28	2.8

[未婚・既婚]

	回答者数(人)	構成比(%)
未婚	222	22.3
既婚(別離・死別含む)	735	73.8
(無回答)	39	3.9

[ライフステージ]

	回答者数(人)	構成比(%)
独身期	118	11.8
家族形成期	111	11.1
家族成長前期	115	11.5
家族成長後期・家族熟成期	170	17.1
高齢期	94	9.4
高齢者世帯	148	14.9
その他	198	19.9
(無回答)	42	4.2

[地区]

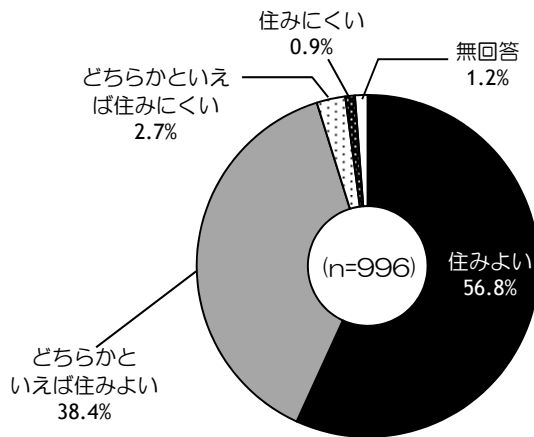
地区名	総人口(人)	対象者数(人)	調査数(人)	回収率(%)	回答者数(人)	構成比(%)
紅葉丘文化センター	22,646	18,025	127	62.2	79	7.9
白糸台文化センター	28,437	23,363	166	63.3	105	10.5
押立文化センター	9,959	8,185	58	55.2	32	3.2
是政文化センター	24,799	19,991	144	68.1	98	9.8
住吉文化センター	26,416	21,342	155	67.1	104	10.4
片町文化センター	29,996	25,167	177	61.6	109	10.9
中央文化センター	40,109	33,215	241	63.9	154	15.5
新町文化センター	27,012	21,973	154	66.9	103	10.3
武蔵台文化センター	15,223	12,621	91	71.4	65	6.5
西府文化センター	18,807	14,909	110	54.5	60	6.0
四谷文化センター	13,914	10,777	77	59.7	46	4.6
地区未回答					41	4.1
計	257,318	209,568	1,500	66.4	996	100.0

上記対象者は、平成 28 年 4 月 1 日現在の満 20 歳以上の人口である。

【住み心地】について

■府中市は住みよいところだと感じるか (n=996)

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割半ばが『府中市は住みよい』と感じている。



「住みよい」(56.8%)と「どちらかといえば住みよい」(38.4%)を合わせた『住みよいと感じる』割合は、9割半ば(95.2%)にのぼる。

また、「住みにくい」(0.9%)と「どちらかといえば住みにくい」(2.7%)を合わせた『住みにくいと感じる』割合は(3.6%)にとどまっている。

図1 住み心地

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた『住みよいと感じる』割合は、年代別では、「20歳代」(97.5%)が最も高く、「70歳代」(93.6%)が最も低い。

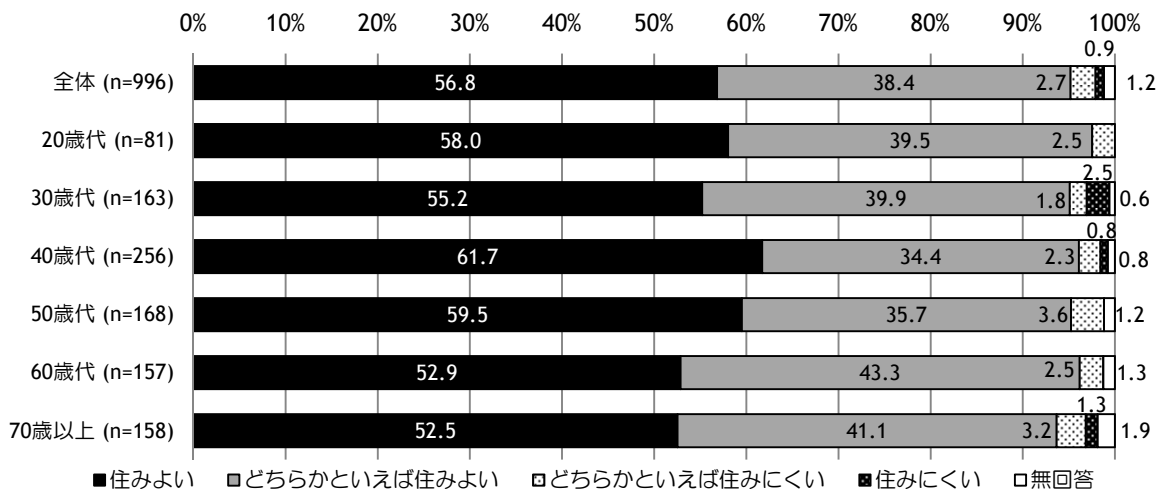


図2 住み心地 (年代別)

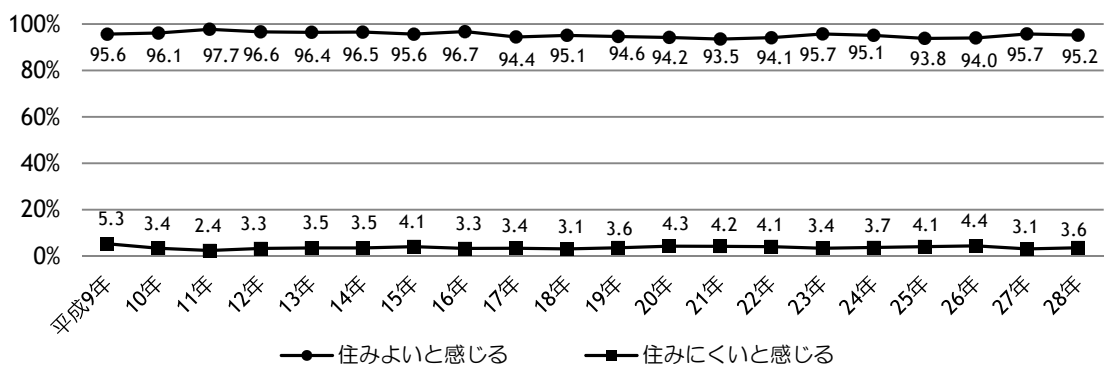


図3 住み心地 (経年別推移)

【住まいの環境】について

■身近な住まいの環境についての率直な感想 (n=996)

「緑の豊かさ」「風通し、日当たり」「日常の買い物の便」「交通の便」「空気」「公共施設」については7割以上が『非常によい』『まあよい』と感じている。一方、「蚊やハエの発生の防止」「騒音や振動の防止」「日常の買い物の便」の順で『あまりよくない』『非常に悪い』と感じる割合が高い。

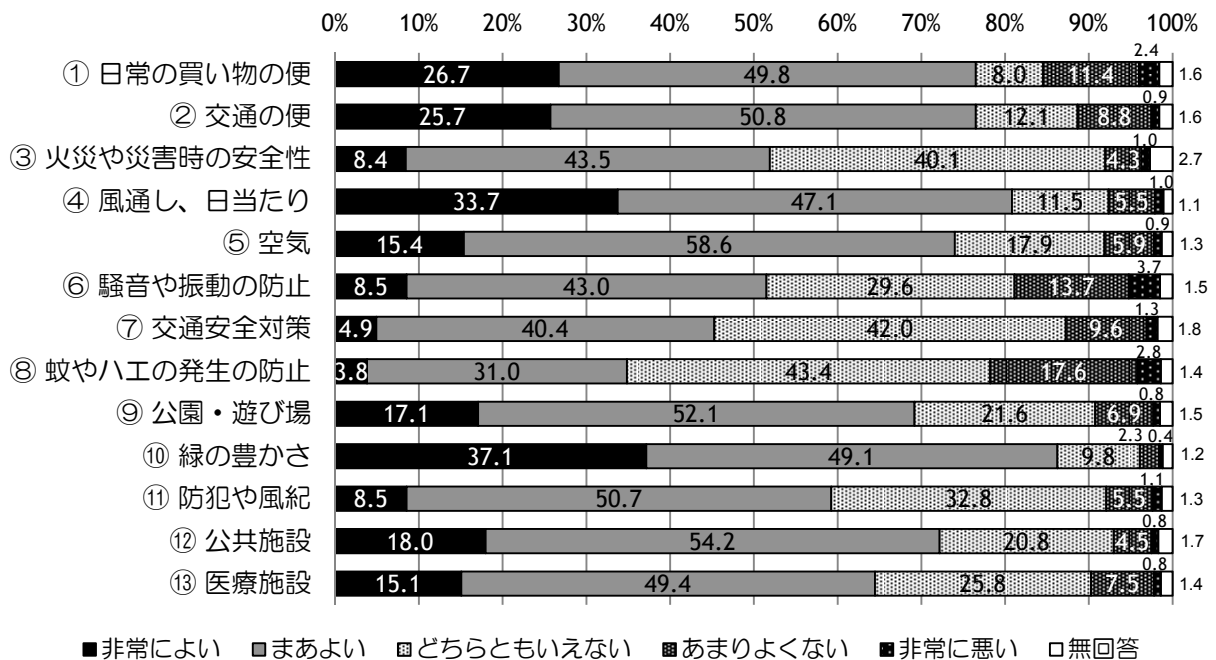


図4 身近な住まいの環境についての感想

順位	住まいの環境	非常によい または まあよい (%)
1位	⑩ 緑の豊かさ	86.2
2位	④ 風通し、日当たり	80.8
3位	① 日常の買い物の便	76.5
3位	② 交通の便	76.5
5位	⑤ 空気	74.0
6位	⑫ 公共施設	72.2
7位	⑨ 公園・遊び場	69.2
8位	⑬ 医療施設	64.5
9位	⑪ 防犯や風紀	59.2
10位	③ 火災や災害時の安全性	51.9
11位	⑥ 騒音や振動の防止	51.5
12位	⑦ 交通安全対策	45.3
13位	⑧ 蚊やハエの発生の防止	34.8

表1 『よい』と感じる割合の順

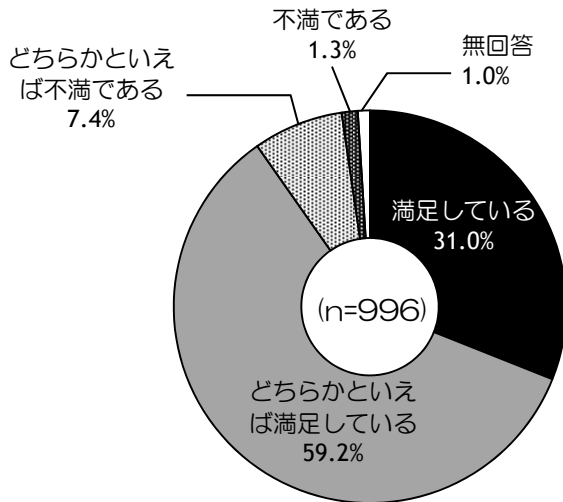
順位	住まいの環境	あまりよくない または 非常に悪い (%)
1位	⑧ 蚊やハエの発生の防止	20.4
2位	⑥ 騒音や振動の防止	17.4
3位	① 日常の買い物の便	13.8
4位	⑦ 交通安全対策	10.9
5位	② 交通の便	9.7
6位	⑬ 医療施設	8.3
7位	⑨ 公園・遊び場	7.7
8位	⑤ 空気	6.8
9位	⑪ 防犯や風紀	6.6
10位	④ 風通し、日当たり	6.5
11位	③ 火災や災害時の安全性	5.3
11位	⑫ 公共施設	5.3
13位	⑩ 緑の豊かさ	2.7

表2 『よくない』と感じる割合の順

【生活の満足度】について

■現在の生活にどの程度満足しているか (n=996)

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割以上が『生活に満足している』と感じている。



「満足している」(31.0%)と「どちらかといえば満足している」(59.2%)を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、約9割(90.2%)を占める。

また、「不満である」(1.3%)と「どちらかといえば不満である」(7.4%)を合わせた『生活に不満を感じる』割合は、1割に満たない(8.7%)。

図5 生活の満足度

年代別では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『生活に満足していると感じる』割合は、「20歳代」(95.0%)が最も高く、「50歳代」(88.7%)が最も低い。

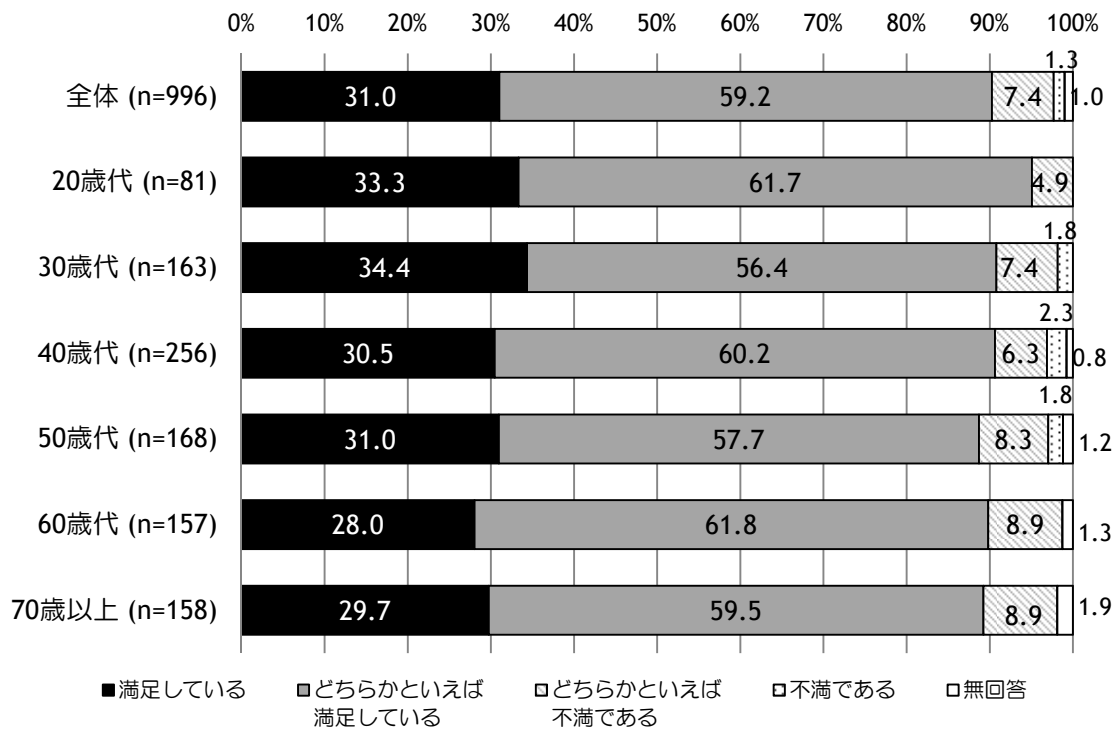
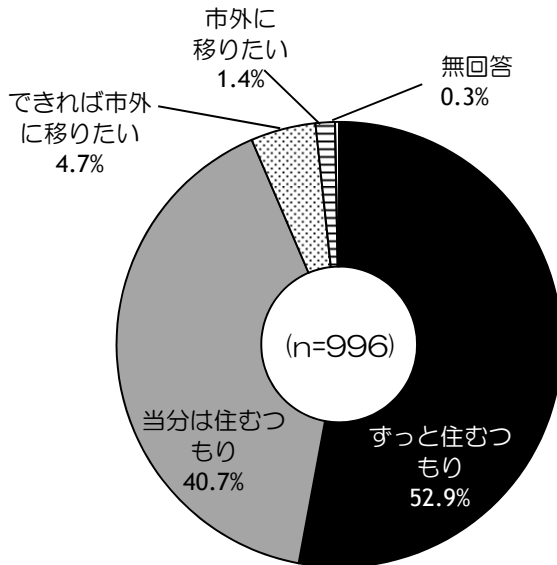


図6 生活の満足度 (年代別)

【定住意向】について

■ 今後も府中市に住み続けたいと思うか (n=996)

「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせると、9割以上が『今後も府中市に住み続けたい』と感じている。



「ずっと住むつもり」(52.9%)と「当分は住むつもり」(40.7%)を合わせた『住み続けたいと感じている』割合は9割以上(93.6%)を占める。

また、「市外に移りたい」(1.4%)と「できれば市外に移りたい」(4.7%)を合わせた『市外に移りたいと感じている』割合は(6.1%)である。

図7 定住意向

年代別では、「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせた『住み続けたいと感じている』割合は、「60歳以上」(98.1%)が最も高く、「20歳代」(79.0%)が最も低い。

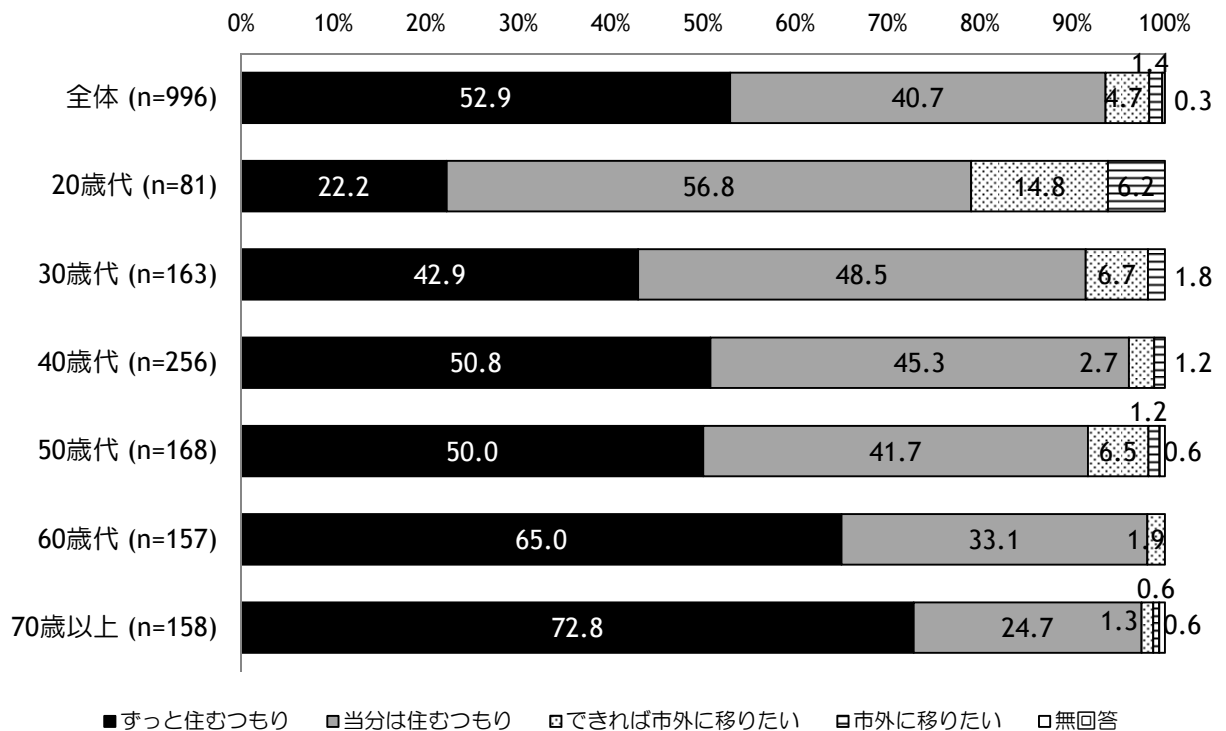
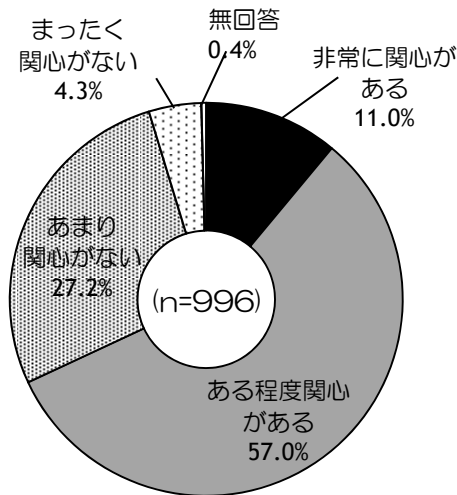


図8 定住意向 (年代別)

【市政に対する関心度】について

■ 市政にどの程度関心を持っているか (n=996)

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると、7割近くが市政に関心を持っている。



「非常に関心がある」(11.0%)と「ある程度関心がある」(57.0%)を合わせた『市政に関心がある』割合は(68.0%)で、7割近くが市政に関心を持っている。

一方、『市政に関心がない』割合は、「まったく興味がない」(4.3%)と「あまり関心がない」(27.2%)を合わせた(31.5%)である。

図9 市政に対する関心度

年代別では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『市政に関心がある』割合は、「70歳以上」(81.1%)が最も高く、「20歳代」(40.7%)が最も低い。

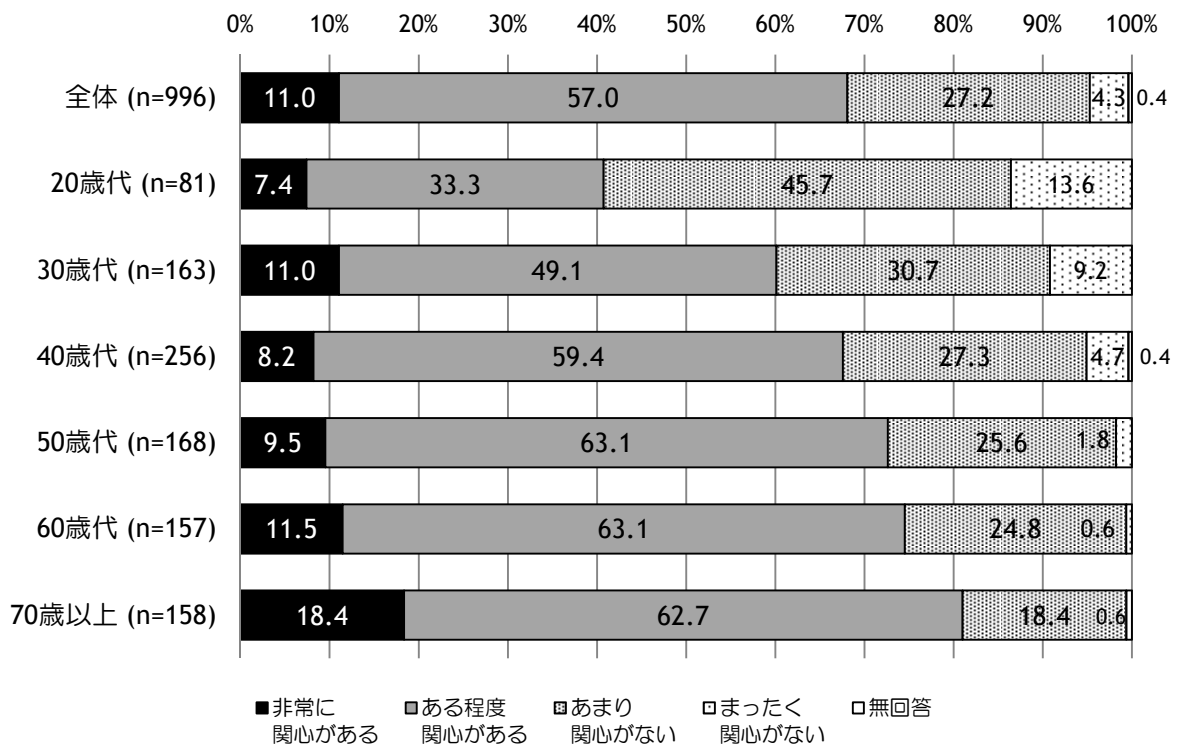


図10 市政に対する関心度(年代別)

【市への要望】について

■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと（n=996：複数回答）

市への要望として、「高齢者福祉対策」（34.8%）、「防犯・風紀対策」（22.5%）の順に高くなっている。これらに続いて「市民の健康管理対策」（19.7%）、「保育行政の充実」（18.6%）「道路の整備」（16.0%）の順となっている。

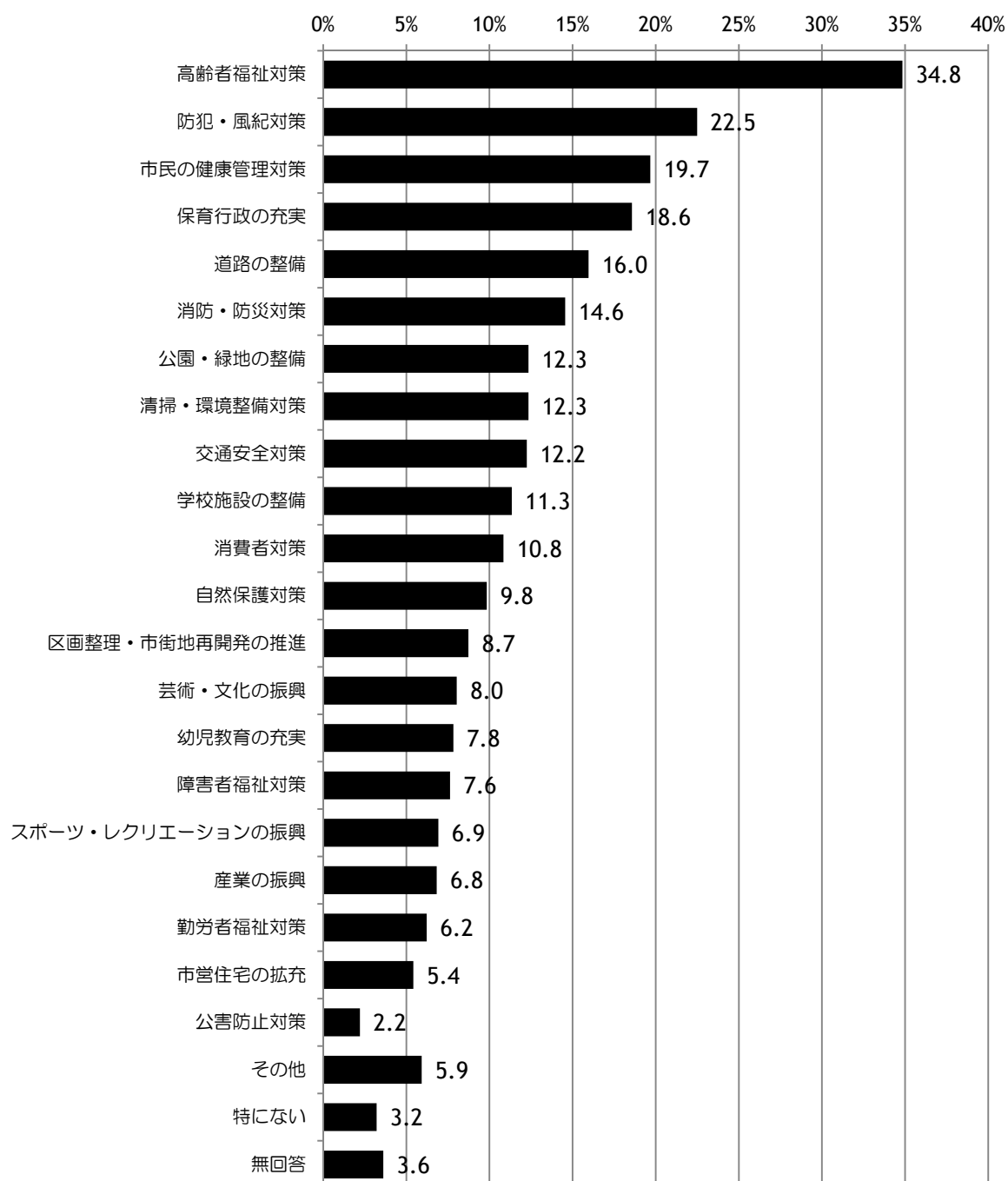


図 11 市への要望

上位5項目について平成19年度からの順位変動を見ると、今年度1位の「高齢者福祉対策」は、常に1位となっている。「防犯・風紀対策」は、常に上位3位に入っている。3位の「市民の健康管理対策」は、毎年上位5項目に含まれている。「保育行政の充実」は、平成27年度、平成26年度5位で今年は4位となっている。5位の「道路整備」は昨年と同様である。平成27年度4位の「清掃・整備環境対策」上位5項目より外れた。

	n	1位	2位	3位	4位	5位
平成28年	996	高齢者福祉対策 34.8%	防犯・風紀対策 22.5%	市民の健康管理対策 19.7%	保育行政の充実 18.6%	道路の整備 16.0%
27年	824	高齢者福祉対策 35.2%	防犯・風紀対策 23.7%	市民の健康管理対策 18.4%	清掃・環境整備対策 15.7%	道路の整備/ 保育行政の充実 14.3%
26年	844	高齢者福祉対策 41.6%	防犯・風紀対策 29.1%	市民の健康管理対策 18.5%	清掃・環境整備対策 16.1%	保育行政の充実 14.3%
25年	836	高齢者福祉対策 38.2%	防犯・風紀対策 24.5%	清掃・環境整備対策 18.7%	市民の健康管理対策 17.5%	消防・防災対策 14.2%
24年	846	高齢者福祉対策 35.6%	防犯・風紀対策 28.1%	市民の健康管理対策 17.8%	交通安全対策 17.3%	消防・防災対策 15.2%
23年	835	高齢者福祉対策 34.4%	防犯・風紀対策 26.7%	清掃・環境整備対策 18.1%	市民の健康管理対策 17.0%	消防・防災対策 16.4%
22年	889	高齢者福祉対策 43.5%	市民の健康管理対策 27.0%	防犯・風紀対策 21.9%	清掃・環境整備対策 19.6%	自然保護対策/ 消費者対策 15.7%
21年	881	高齢者福祉対策 42.0%	防犯・風紀対策 27.0%	清掃・環境整備対策 26.6%	市民の健康管理対策 20.0%	消費者対策 16.1%
20年	889	高齢者福祉対策 42.2%	防犯・風紀対策 30.6%	清掃・環境整備対策 25.8%	市民の健康管理対策 18.3%	消費者対策 15.3%
19年	892	高齢者福祉対策 41.8%	清掃・環境整備対策 32.0%	防犯・風紀対策 31.8%	市民の健康管理対策 16.1%	消費者対策 12.4%

表3 経年推移 (上位5位)

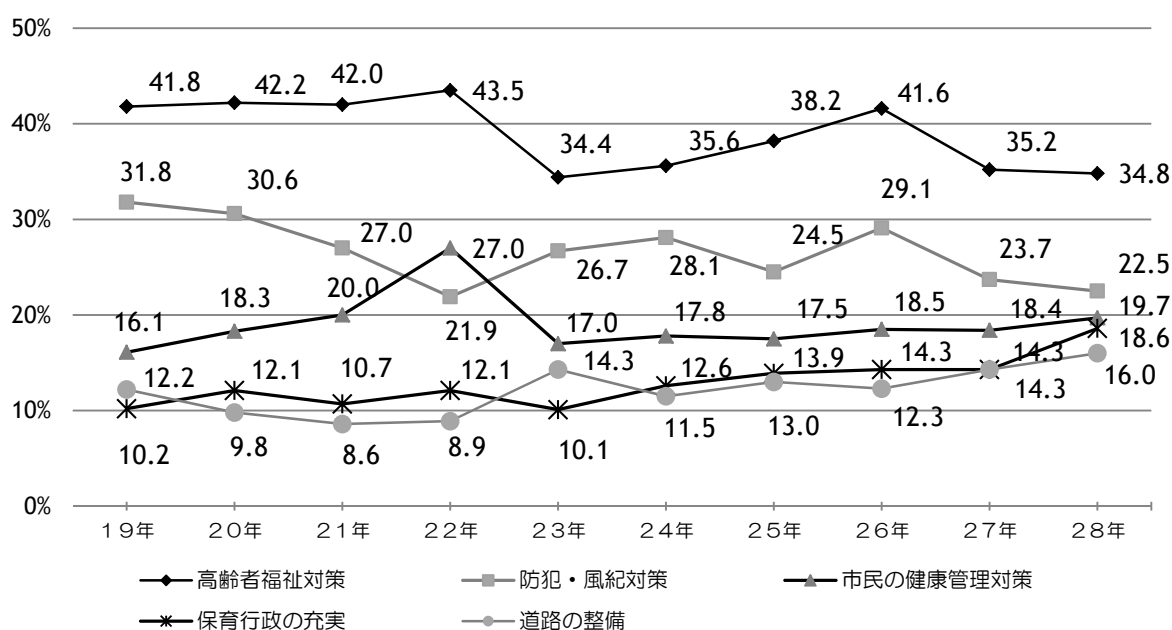


図12 経年推移 (上位5位)

【食育】について

■朝食を食べる日が週に何日あるか (n=996)

「毎日」が(76.7%)を占め最も高い。次いで、「ほとんど食べない」(8.8%)、「週 5～6日」(5.5%)、「週3～4日」(4.8%)と続いている。

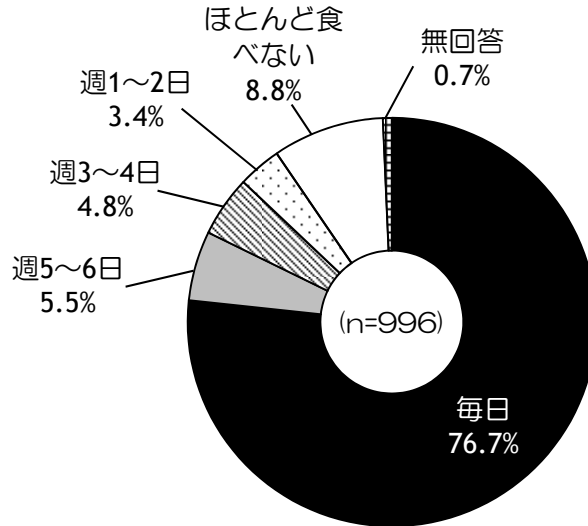


図 13 朝食を食べる日

■朝食を食べない理由 (n=225)

「朝食を食べる時間がないため」(39.6%)が最も高い。次いで「朝食を食べる習慣がないため」(17.8%)、「食欲がないため」(14.2%)となっている。

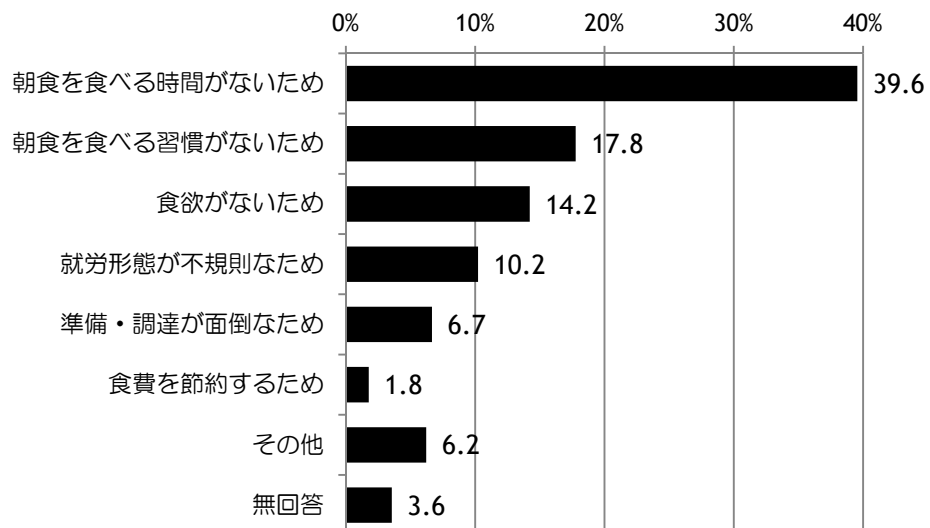


図 14 朝食を食べない理由

■ 食事は主に誰と食べるか (n=996)

朝食は「家族」(51.4%)、「ひとり」(43.3%)の順となっている。

昼食は「ひとり」(39.4%)、「集団」(33.3%)の順となっている。

夕食は「家族」(72.0%)、「ひとり」(22.3%)の順となっている。

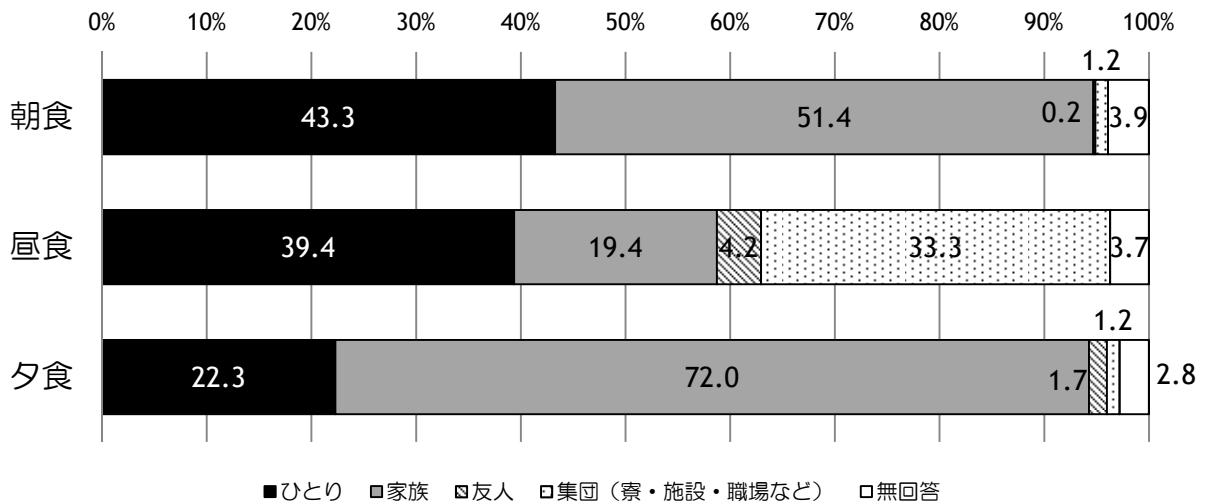


図 15 誰と食べるか

■ 食育に関して重要だと思うこと (n=996)

「食生活の栄養のバランス」が(34.5%)を占め、最も高い割合となっている。次いで、「食を通じたコミュニケーション」(24.3%)、「食品の安全性」(14.8%)となっている。

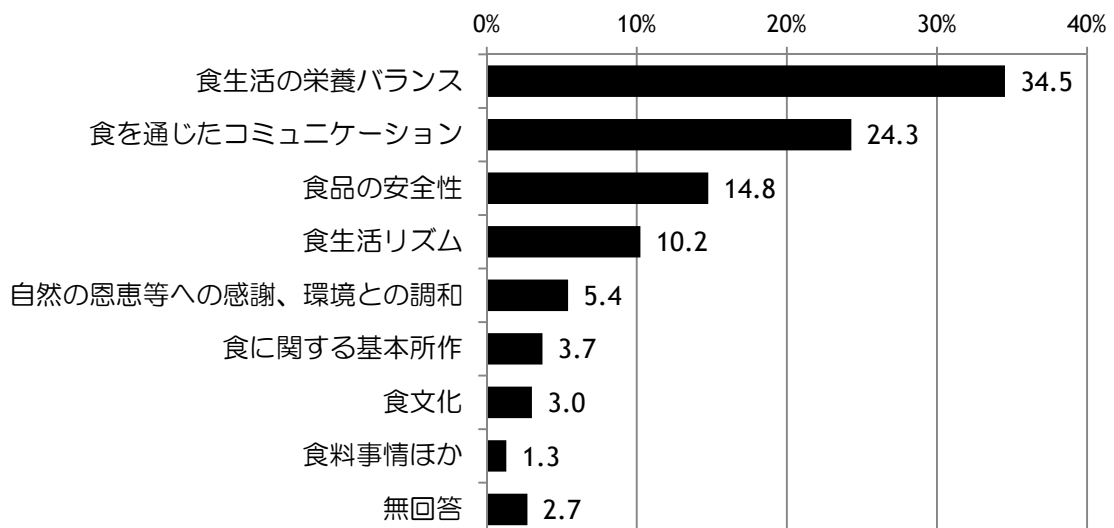


図 16 食育に関して重要だと思うこと

【インフラマネジメント】について

■インフラの維持管理に対する現状や課題についての関心度 (n=996)

「強い関心を持っている」(17.1%)と「少し関心を持っている」(49.2%)が合わせて6割半ば(66.3%)を占めており、関心をもってない(33.3%)のおよそ2倍となっている。

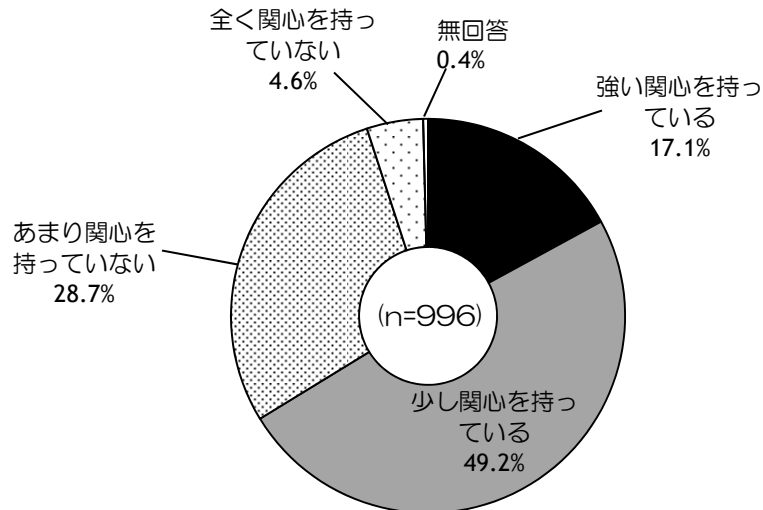


図 17 インフラマネジメントへの関心度

■「府中市インフラマネジメント計画」を市ホームページや図書館等で公表していることを知っているか (n=996)

「知らない」が(80.1%)を占め、最も高い割合となっている。

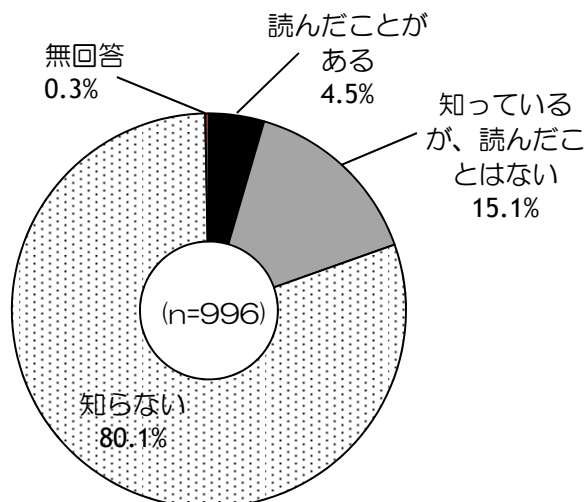


図 18 「計画」の公表を知っている

■安全なインフラを提供していくための方策に対する考え（n=996）

「施設を補強して長持ちさせることにより、更新までの期間を長くする」では、実施すべきが(88.5%)で9割近くを占めている。「機能していない市の道路や水路の売却・貸付によって、収入を得る」では、実施すべきが(83.2%)で8割強を占めている。一方「証明発行などの事務手数料・利用料を引き上げる」では、実施すべきでない(70.1%)が7割を超えている。「現在ある公園や歩道橋等を集約することによって、施設数を減らす」では、実施すべきでないが(65.4%)6割を有に超えている。

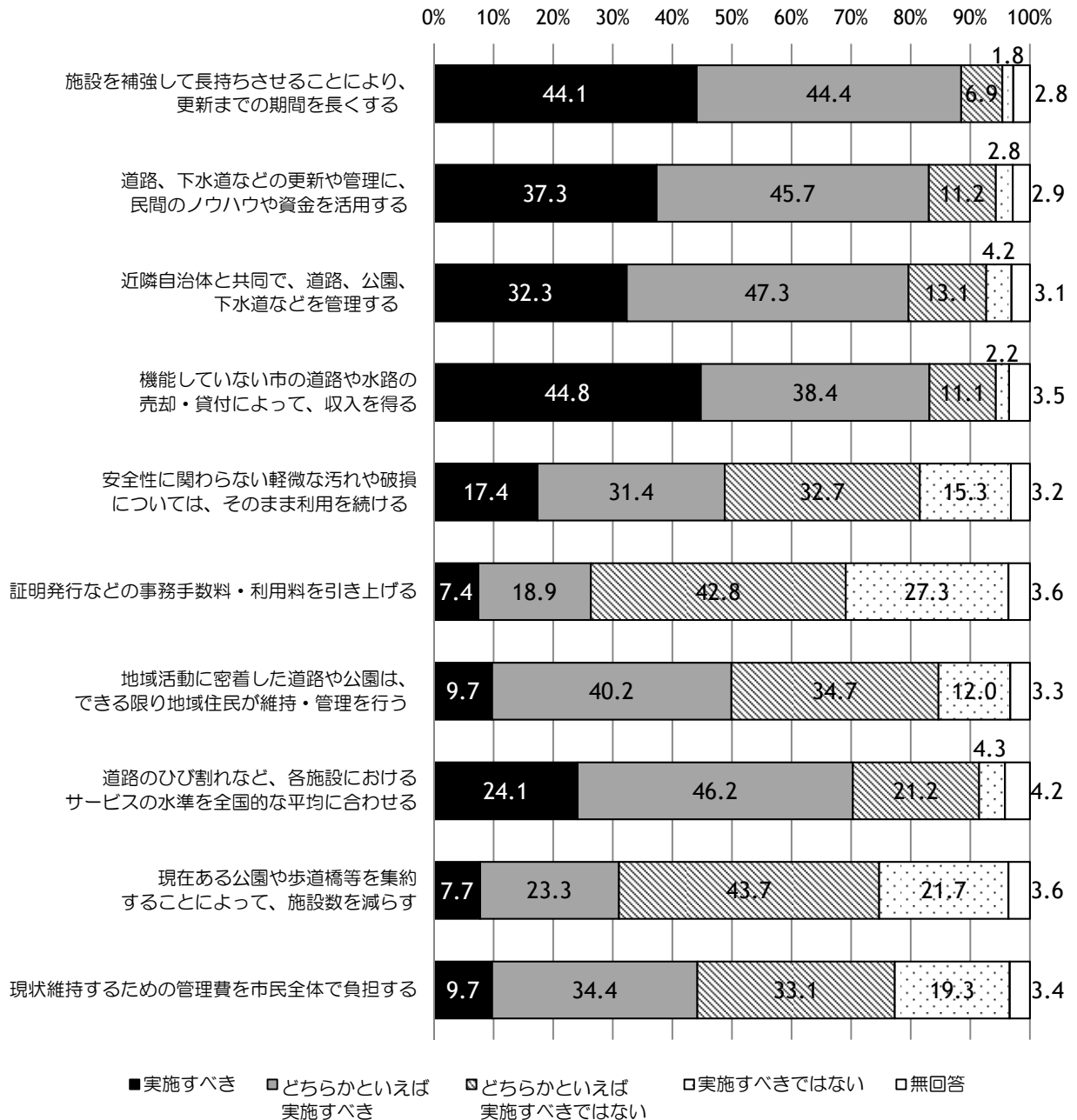


図 19 安全なインフラを提供していくための方策に対する考え

【府中市都市サイン計画】について

- 案内図、施設誘導等のサインが設置されていることを知っているか(n=996)
「知っている」が(58.3%)、「知らない」が(40.7%)、となっている。

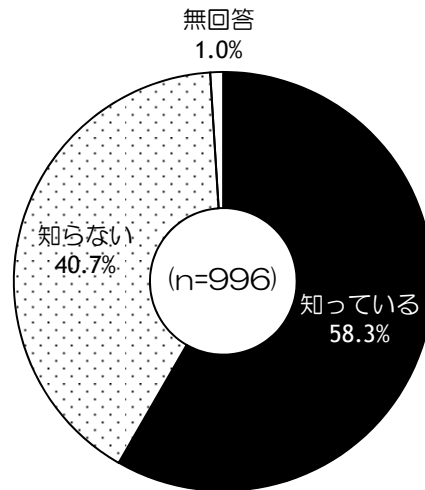


図 20 サイン設置を知っているか

- 施設等を訪れる際にサインを利用するか (n=996)
「どちらかといえば見ている」が(48.4%)を占め、最も高い割合となっている。次いで「見ている」(25.6%)、「どちらかといえば見ていない」(19.8%)である。

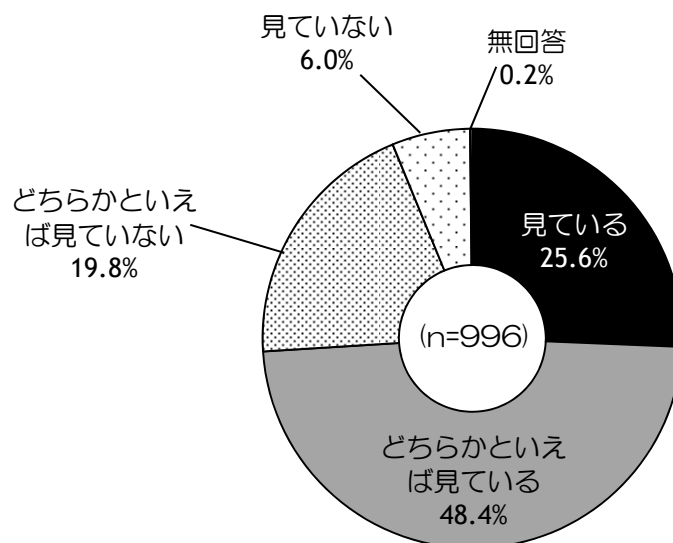


図 21 施設等を訪れる際にサインを利用するか

■サインは必要だと思うか (n=996)

「どちらかといえば必要である」(44.9%)と「必要である」(41.1%)を合わせた、『必要であると思う』が8割半ば(86.0%)を占めている。

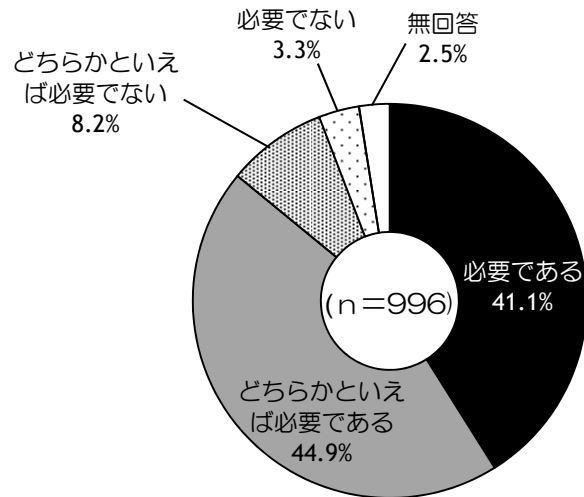


図 22 サインは必要だと思うか

■施設を訪れる際に、最も利用する確認手段 (n=996：複数回答)

「インターネット (パソコン・携帯等)」(67.5%)で、最も高い割合となっている。ついで、「市ホームページ」(40.1%)、「わたしの便利帳」(29.5%)の順になっている。

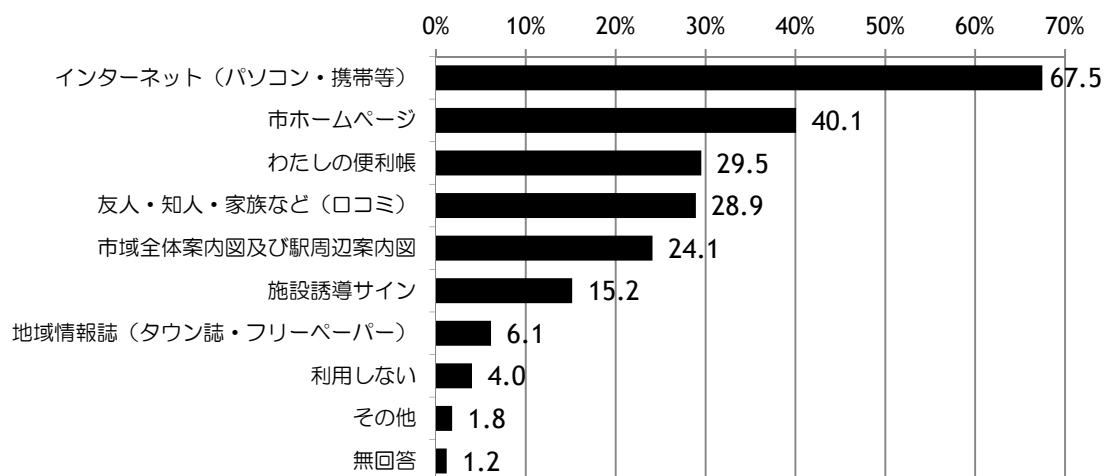


図 23 最も利用する確認手段

【狭あい道路拡幅整備の促進に係る、新たな施策の検討】に

ついて

■ 建築時に道路の中心から2mの後退の必要があることを知っているか (n=996)

「まったく知らない」が(39.2%)を占め、最も高い割合となっている。次いで、「聞いたことはある」(29.0%)、「概略は知っている」(16.1%)の順となっている。

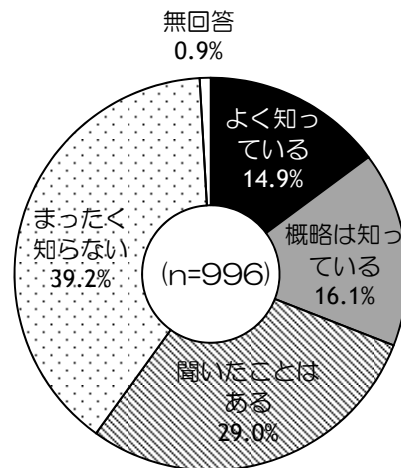


図 24 道路後退の必要を知っているか

■ 狭あい道路拡幅整備事業を知っているか (n=996)

「まったく知らない」が(65.6%)を占め、最も高い割合となっている。次いで、「聞いたことはある」(21.2%)、「概略は知っている」(8.9%)の順となっている。

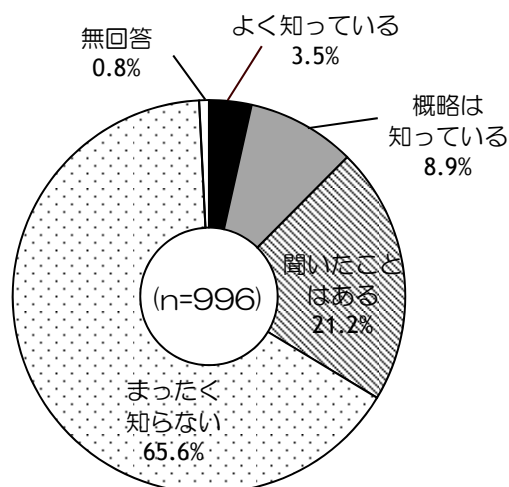


図 25 狭あい道路拡幅整備事業を知っているか

■ 後退用地の寄附と公費での道路整備について (n=996)

「必要だと思う」が(66.8%)を占め、最も高い割合となっている。次いで、「十分に理解でき、必要だと思う」(17.5%)、「あまり必要ではない」(11.8%)の順となっている。

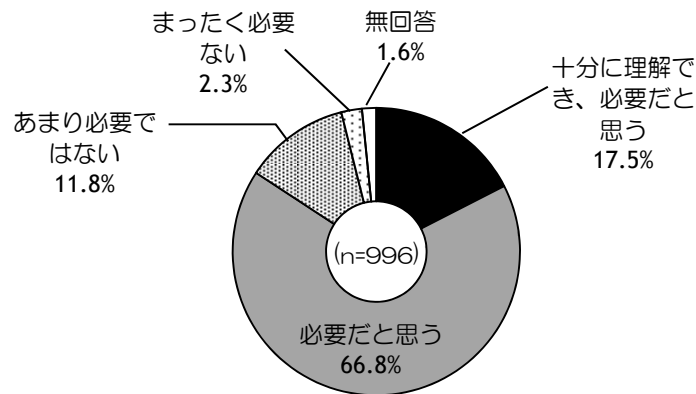


図 26 後退用地の寄附と公費での道路整備について

■ 除去費用の一部に助成金を交付していることについて

「事業を推進するためにはある程度必要である」が(53.2%)を占め、最も高い割合になっている。次いで、「事業を推進するためには当然必要である」(31.8%)となっている。

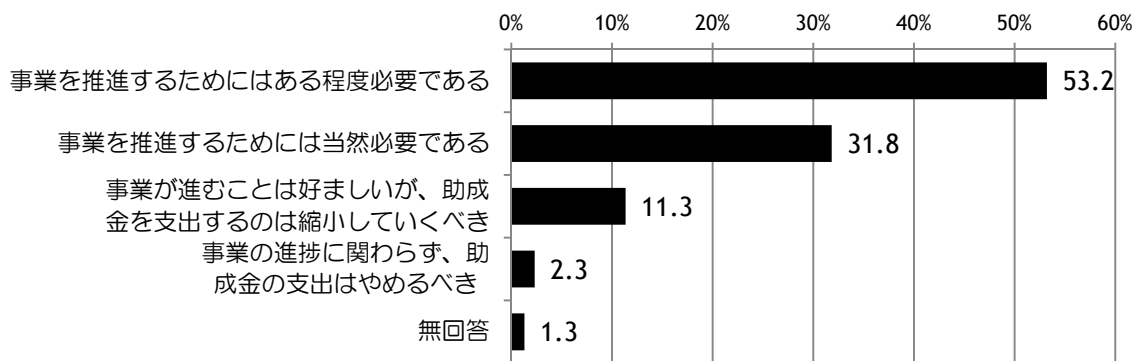


図 27 助成金を交付していることについて

■ 新たな取り組みとして有効だと思うもの (n=996：複数回答)

「狭あい道路が多く存在する地域を指定し、重点的に取り組む」が(36.5%)で、最も高い割合となっている。次いで、「木造住宅などが密集する地域の狭あい道路の拡幅を重点的に取り組む」(29.9%)となっている。

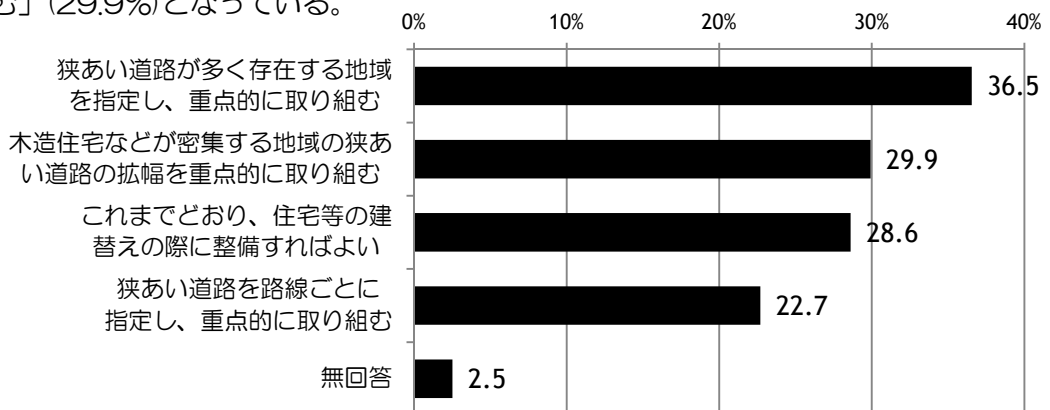


図 28 新たな取り組みとして有効だと思うもの

■ 行政はどのような施策をとるべきと思うか (n=996：複数回答)

「道路部分の固定資産税の減免」が(45.3%)で、最も高い割合となっている。次いで、「道路後退用地の買い取り制度」(38.9%)、「市による舗装等の道路拡幅整備」(36.8%)の順となっている。

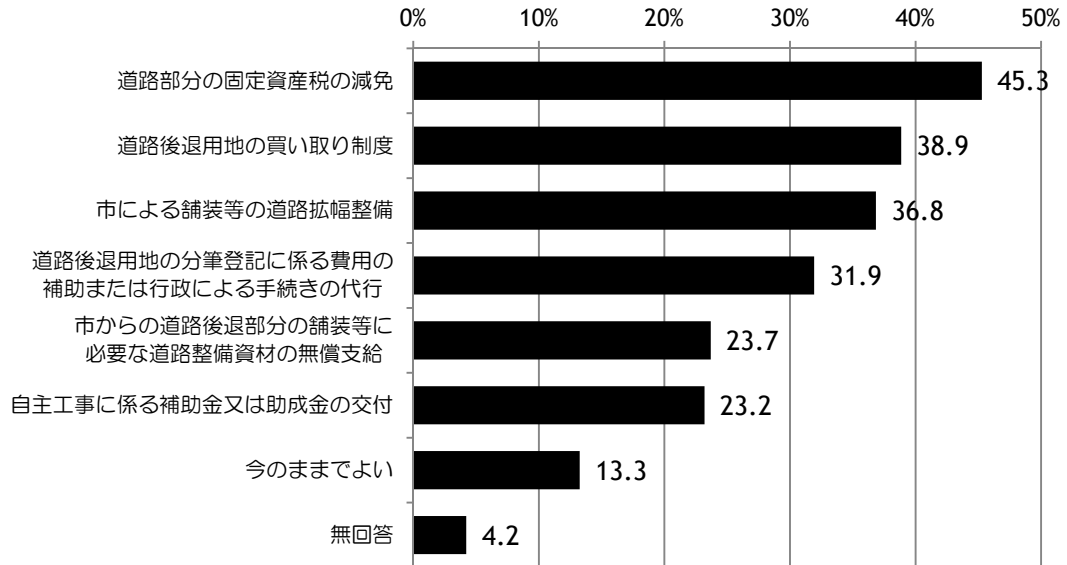


図 29 どのような施策をとるべきと思うか

■ 防災機能の改善を図るための施策として有効だと思うもの (n=996：複数回答)

「道路の拡幅整備の推進」が(54.0%)で、最も高い割合となっている。次いで、「市街地再開発事業や土地区画整理事業の実施」(35.4%)、「木造建築物の不燃化への誘導」(35.3%)の順となっている。

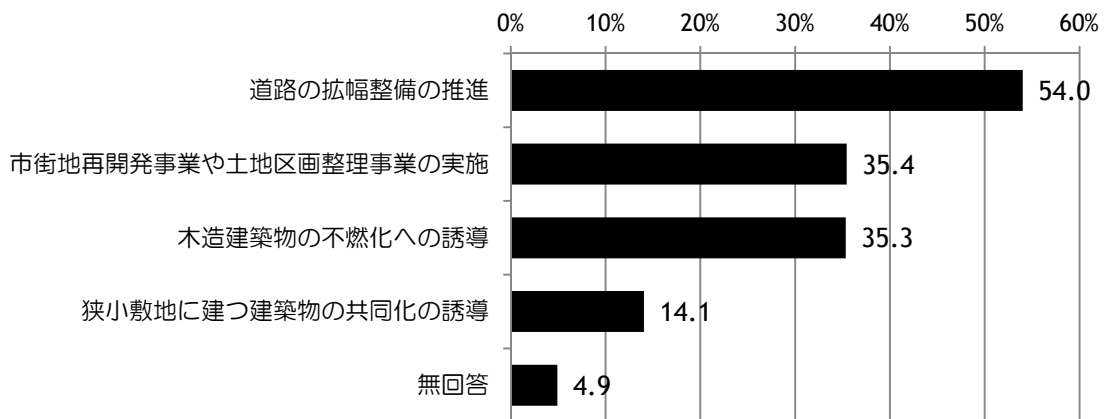


図 30 防災機能の改善のため有効だと思う施策

【投票環境の向上】について

■ 期日前投票・不在者投票の内容を知っているか (n=996)

「投票日前に投票できる制度（期日前投票）があること」を知っているが(96.7%)を占め、最も高い割合となっている。「長期の出張や旅行で投票所に行くことができない場合に、外出先の選挙管理委員会で投票できること（不在者投票）」を知っているが(40.9%)で最も低い割合となっている。

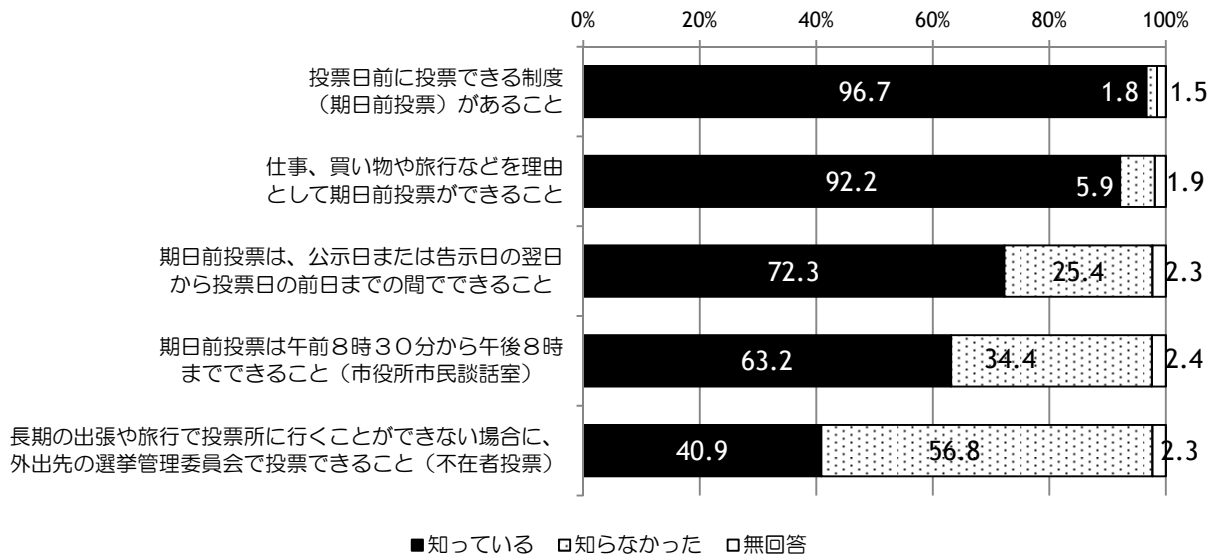


図 31 期日前投票・不在者投票の内容を知っているか

■ 投票所の環境改善のため希望するもの (n=996：複数回答)

「今のままでよい」が(46.1%)で、最も高い割合となっている。次いで、「自宅から行きやすい投票所で投票できるようにしてほしい」(34.8%)、「期日前投票所の受付時間延長や増設をしてほしい」(27.2%)の順となっている。

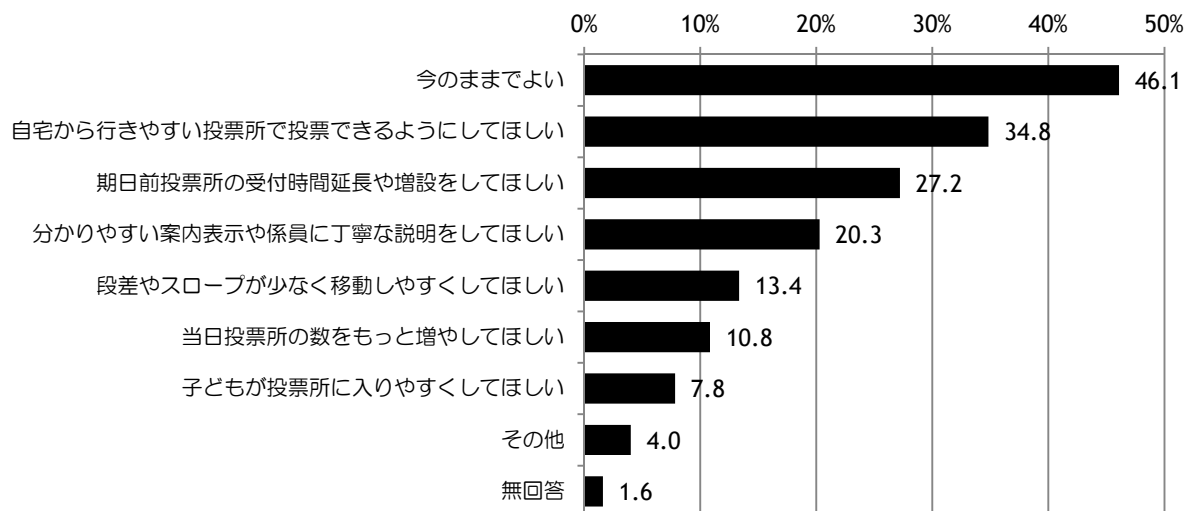


図 32 投票所の環境改善のため希望するもの

■ 若者の投票率向上のために行うべき取り組み (n=996：複数回答)

「学校での主権者教育を進めるよう、市として働きかけを行う」が(62.1%)で、最も高い割合となっている。次いで、「大学構内に期日前投票所を設置する」(48.3%)、「投票所の受付事務や立会人に若者を積極的に活用する」(36.9%)の順となっている。

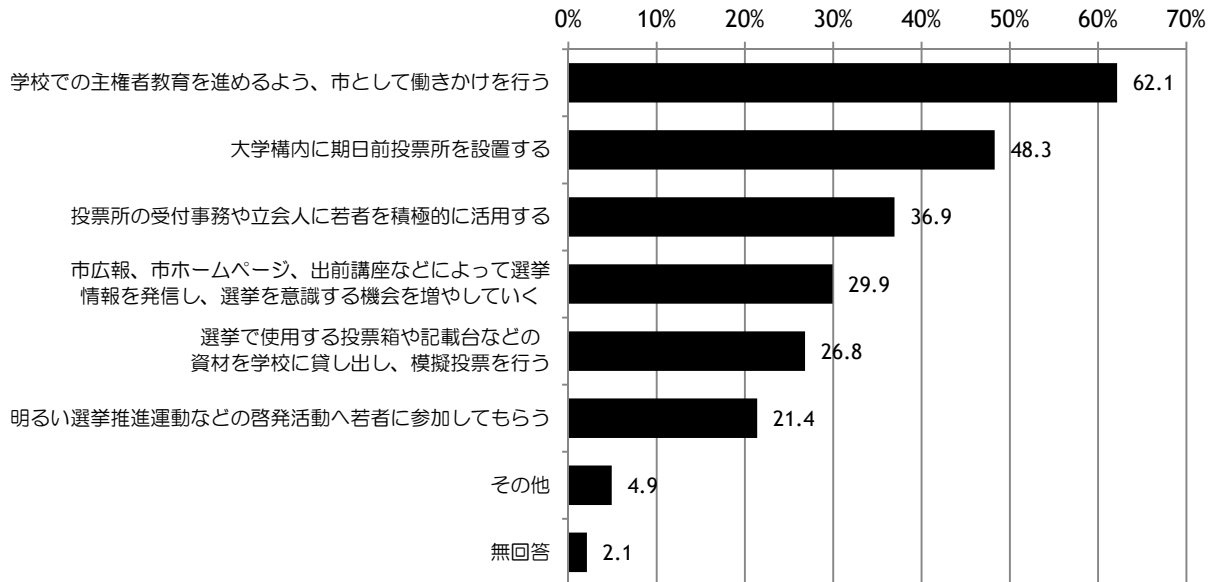


図 33 若者の投票率向上のために行うべき取り組み

【市民協働の推進】について

■ 「協働」という言葉を知っているか (n=996)

「知らない」(56.9%)は 6 割近くとなっている。「聞いたことがある」(29.7%)は約 3 割を占めており、「よく知っている」(12.8%)は 1 割以上である。

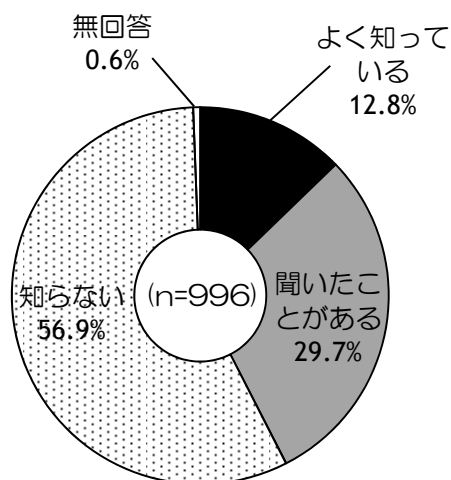


図 34 「協働」という言葉を知っているか

■ 「府中市市民協働の推進に関する基本方針」を知っているか (n=996)

「知らない」(80.4%)が約8割で、最も高くなっている。次いで、「知っているが、内容は理解していない」(14.9%)、「知っているし、内容もある程度理解している」(4.0%)の順となっている。また、「基本方針」を知った方法では、「市の広報紙「広報ふちゅう」」(83.0%)が最も多い。

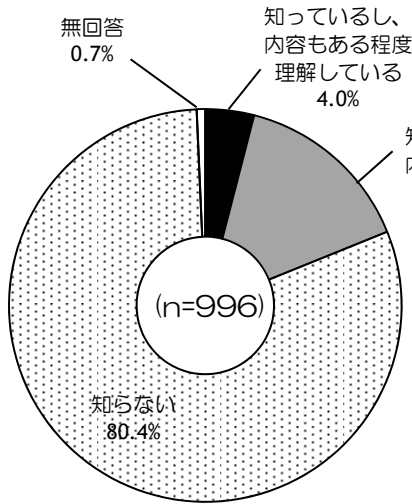


図 35 「基本方針」を知っているか

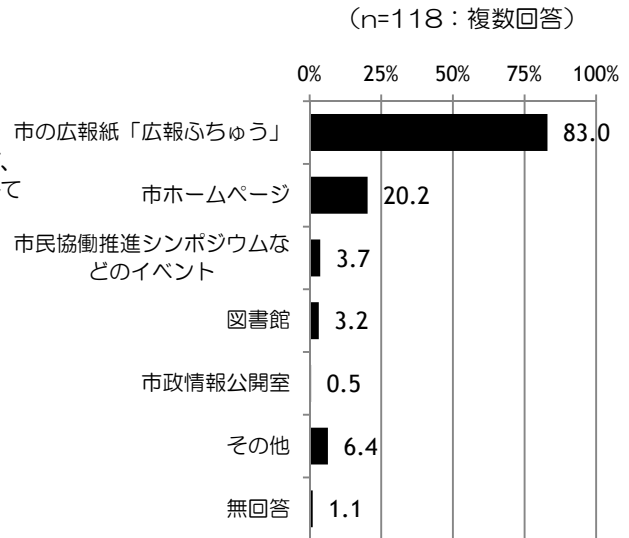


図 36 「基本方針」を知る方法

■ 「市民協働都市宣言」を知っているか (n=996)

「知らない」(76.4%)が8割近くで、最も高くなっている。次いで、「知っているが、内容は理解していない」(19.2%)、「知っているし、内容もある程度理解している」(3.8%)の順となっている。また、「都市宣言」を知った方法では、「市の広報紙「広報ふちゅう」」(84.3%)が最も多い。

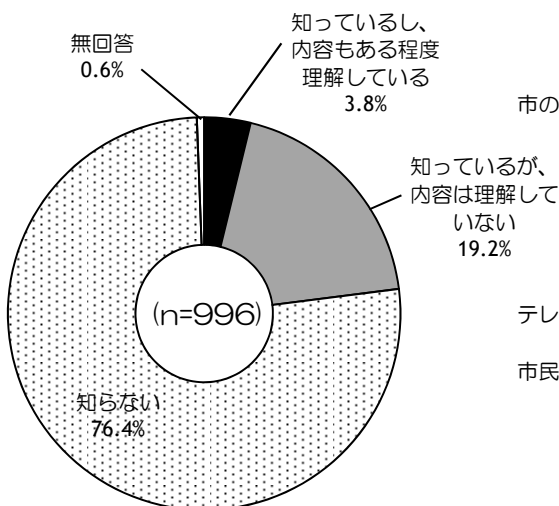


図 37 「都市宣言」を知っているか

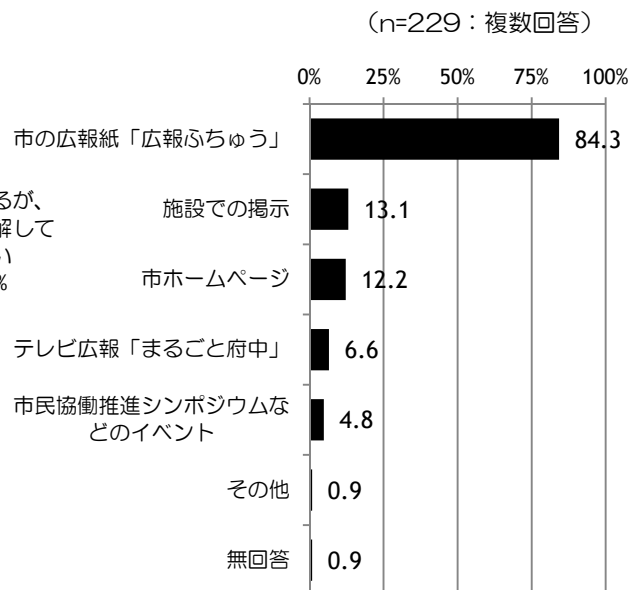


図 38 「都市宣言」を知る方法

■ 「協働によるまちづくり」をどのように思うか (n=996)

「協働の意味や効果、範囲がわかりにくいので、なんともいえない」(40.5%)、「今後、充実していくことが望ましい」(34.0%)の割合が高くなっている。次いで、「協働は必要だが、まちづくりは行政主導で進めることが望ましい」(11.8%)、「協働には手間や時間がかかると思うので、あまりやりたくない」(4.6%)の順となっている。

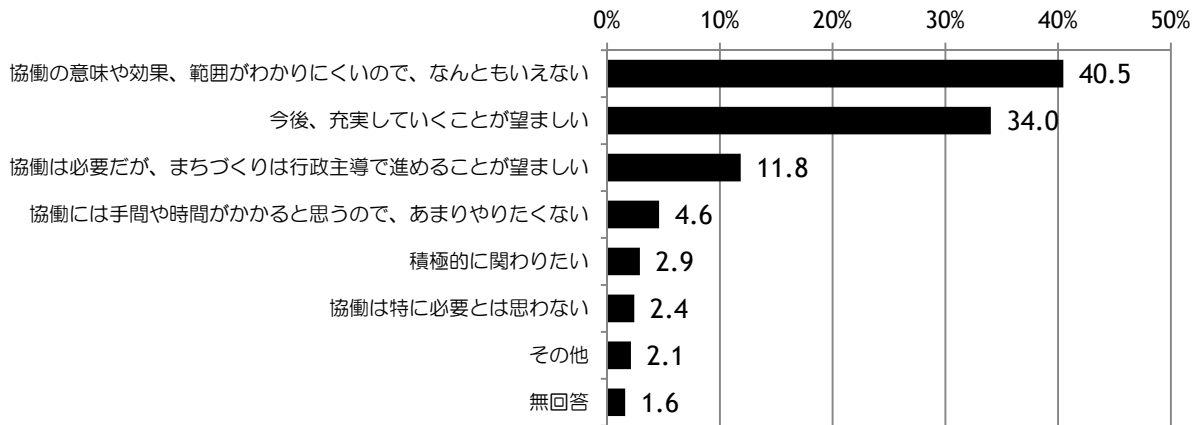


図 39 「協働によるまちづくり」をどのように思うか

■ 「協働によるまちづくり」で市が力を入れるべきこと (n=996)

「市民、団体等が、市の施設やまちづくりに関われる仕組みをつくる」(26.7%)が、最も高くなっている。次いで、「市民、団体等の活動に役立つ様々な情報を公開・提供する」(26.5%)、で拮抗している。「様々な団体間の交流ができる「場」や「機会」を設ける」(18.8%)、「協働事業に関する相談や支援の窓口を整備する」(12.2%)、「市民、団体等の活動に役立つ講座や研修会等を開催する」(6.5%)の順で高くなっている。

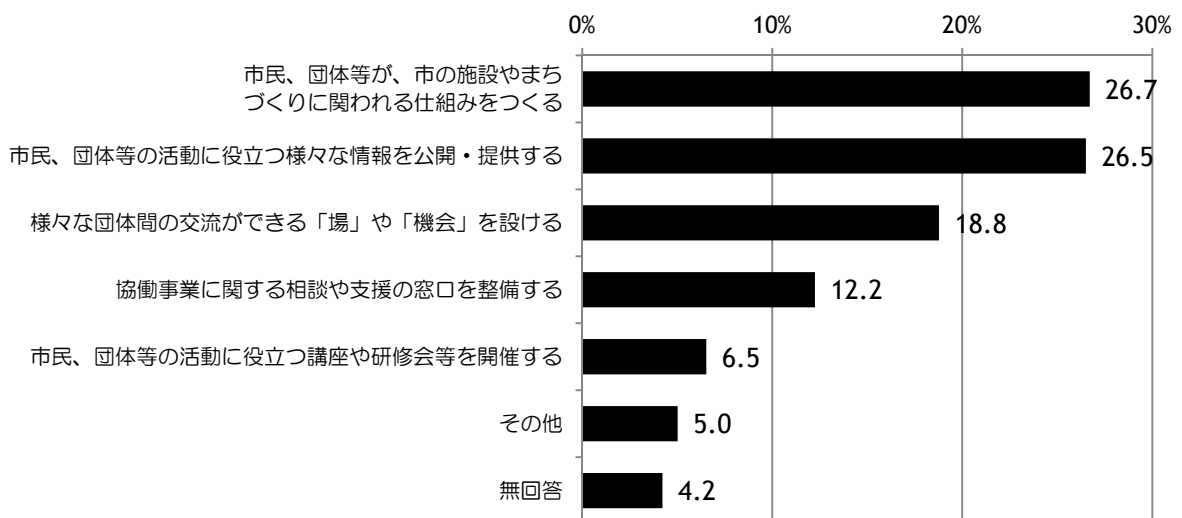


図 40 「協働によるまちづくり」で市が力を入れるべきこと

【パートナーに対する暴力、人権侵害】について

■パートナーの行為に対して実感に近いもの (n=996)

「パートナーに「私が家にいるときは外出しないように」と言う」ことは「許されない」が約7割(70.5%)となっている。「パートナーの交友関係、電話やメールなどを監視する」ことは「許されない」が6割近く(57.2%)となっている。

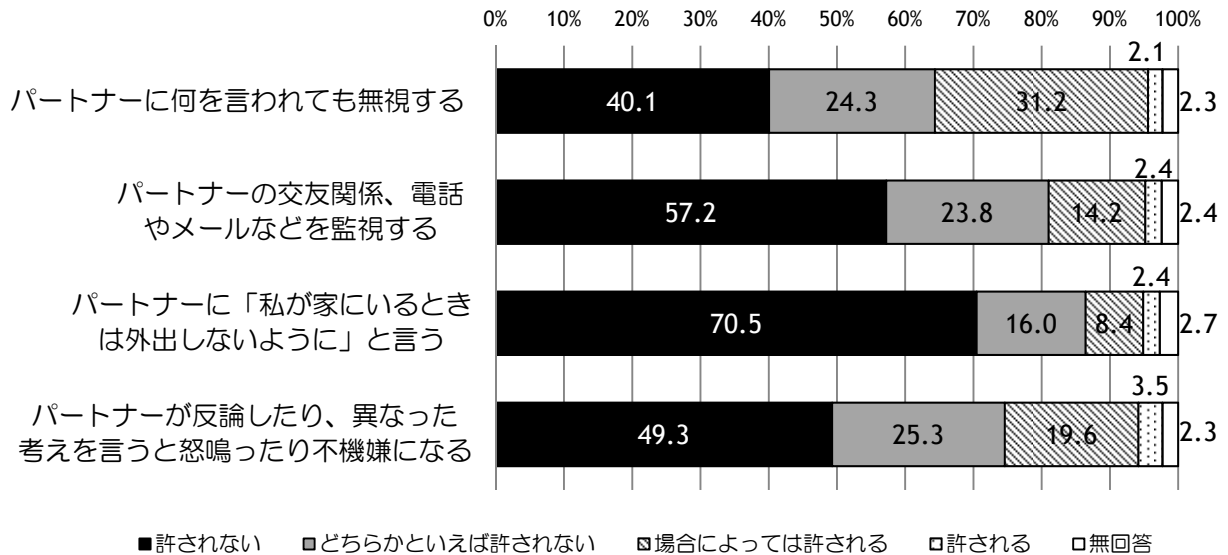


図 41 パートナーの行為に対して実感に近いもの

■暴力があったときの対応の仕方について (n=996)

- A 当事者や家族間で解決するよう努力すべきだ。
- B 警察や相談機関などに関わってもらうべきだ。

「Bに近い」(47.2%)と「どちらかといえば、Bに近い」(21.2%)を合わせると、7割近く(68.4%)を占めている。

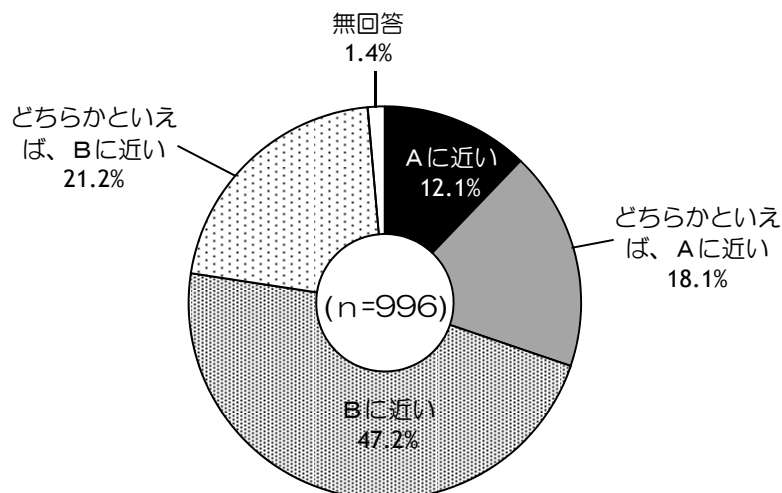


図 42 暴力があったときの対応の仕方について

■ 身体的、社会的、経済的暴力を受けたことがあるか (n=996)

「全くない」(87.2%)が最も高い。次いで「1～2度あった」(6.7%)の順になっている。男性と女性では1割ほど女性の被害が多くなっている。年断別では「50歳代」(13.7%)が最も高く、次に「40歳代」(12.1%)である。

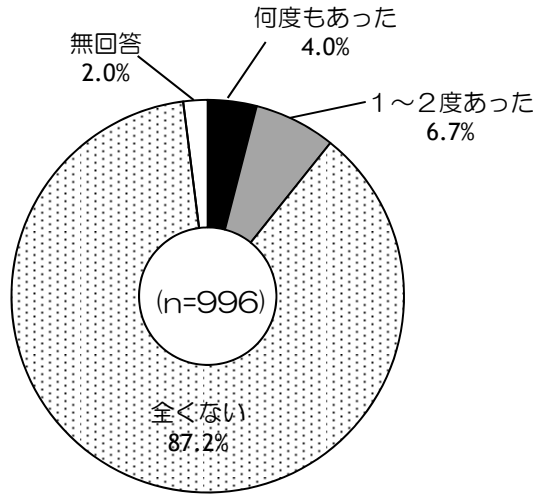


図 43 暴力を受けたことがあるか

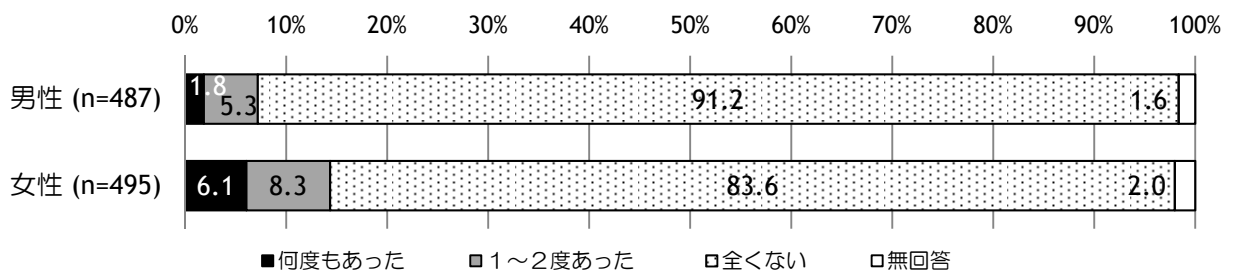


図 44 暴力を受けたことがあるか(性別)

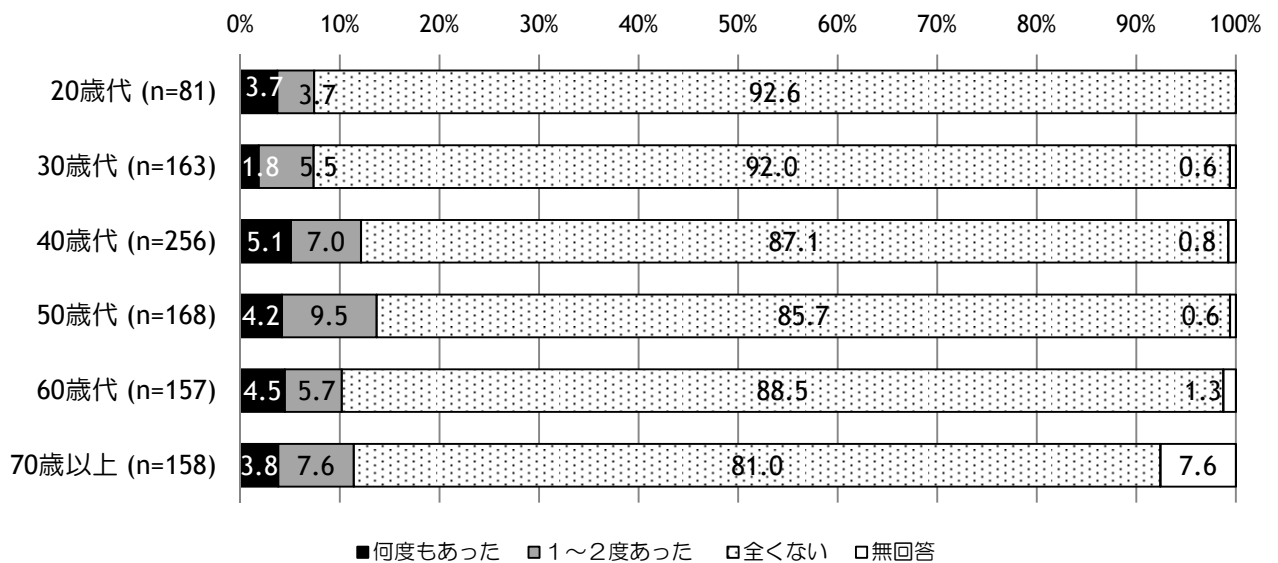


図 45 暴力を受けたことがあるか(年代別)

■パートナーからの暴力について、だれかに相談したか (n=107)

「相談した」(39.3%)が最も高い。次いで「相談したかったが相談しなかった」(31.8%)、「相談しようと思わなかった」(29.0%)の順になっている。

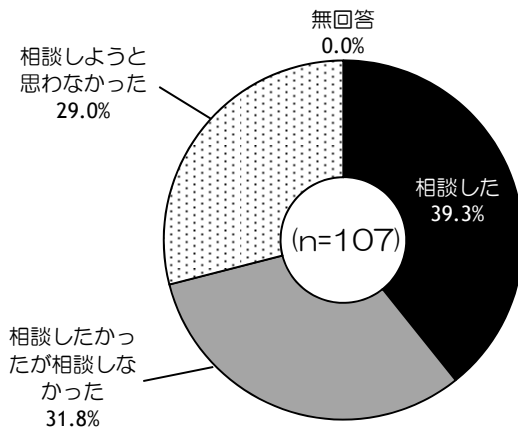


図 46 だれかに相談したか

■パートナーからの暴力について、だれ(どこ)に相談したか (n=42)

「知人・友人」(47.6%)が最も高い。次いで「親族」(28.6%)、「公共機関の相談窓口など」(16.7%)の順になっている。

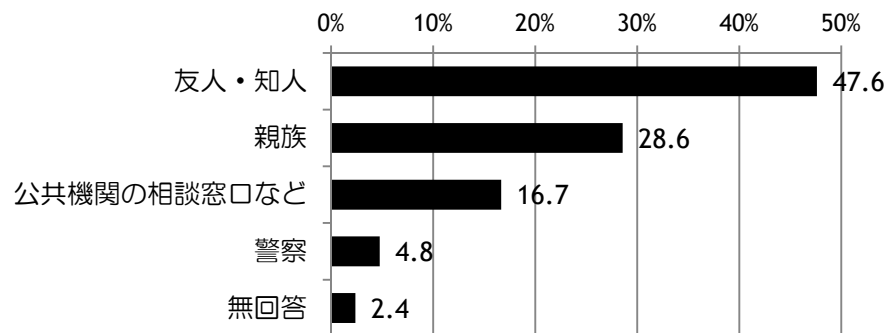


図 47 だれ(どこ)に相談したか

■パートナーからの暴力について、相談しなかった理由 (n=65)

「相談するほどのことではないと思った」(27.7%)が最も高い。次いで「自分にも悪いところがあると思った」(16.9%)、「我慢すればやっていけると思った」(16.9%)の順になっている。

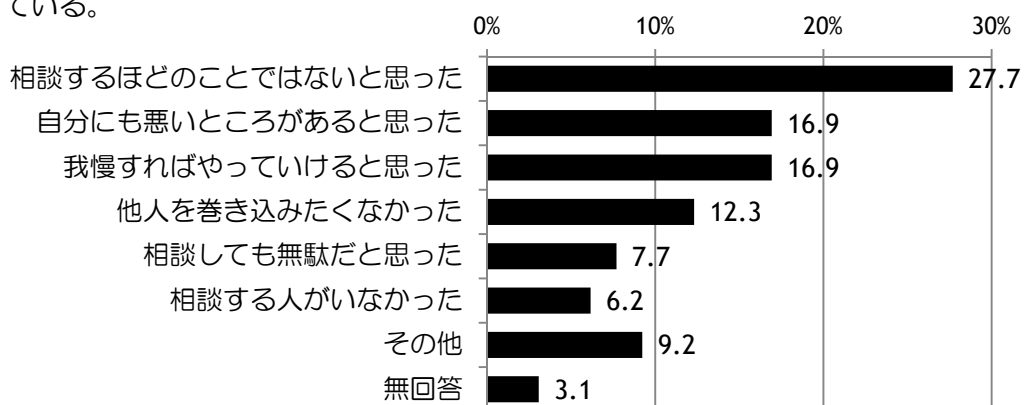


図 48 相談しなかった理由

【空家等対策】について

■「措置法」の施行を知っているか (n=996)

「知らない」が(51.9%)、「知っている」が(46.2%)となっている。

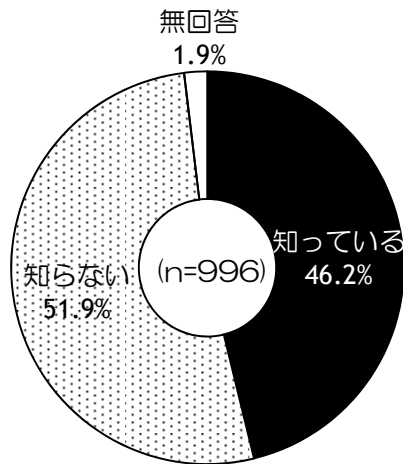


図 49 「措置法」の施行を知っているか

■空家等がもたらす問題は何か (n=996：複数回答)

「雑草・悪臭など衛生環境の悪化」(80.3%)が最も高い。次いで「不法侵入などによる治安の悪化」(77.5%)、「不法投棄を誘発するおそれ」(72.1%)「放火を誘発するおそれ」(71.1%)の順になっている。

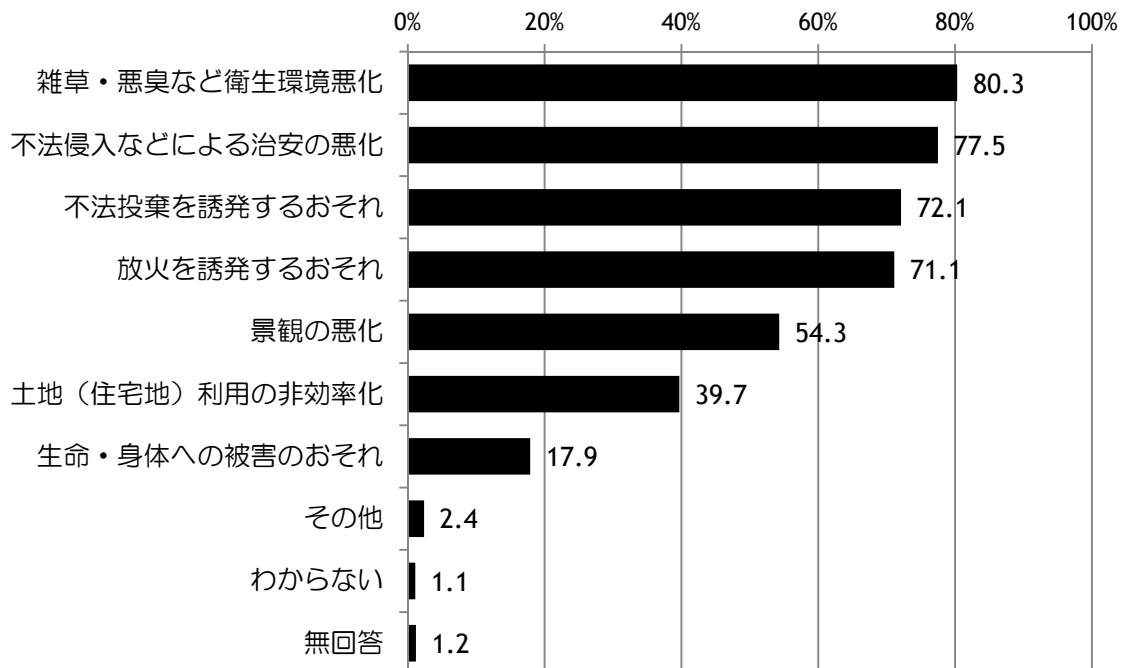


図 50 空家等がもたらす問題は何か

■空家となる原因は何か（n=996：複数回答）

「相続人の不在（遠地居住など）」（70.4%）が最も高い。次いで「相続に伴う権利関係の複雑化」（51.5%）、「更地化に伴う固定資産税の上昇」（47.2%）の順になっている。

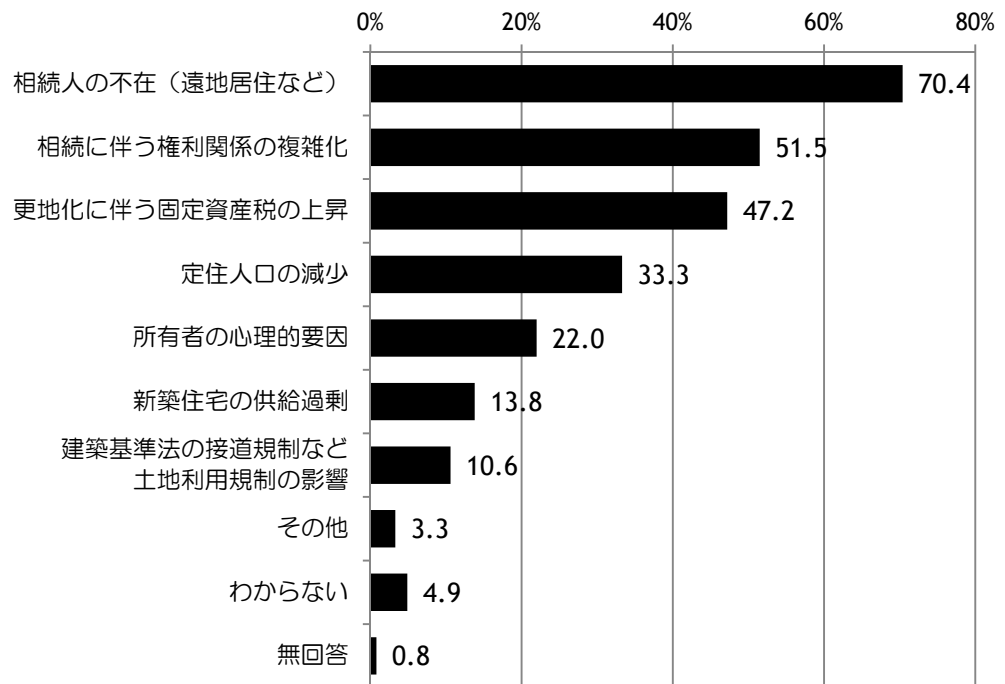


図 51 空家となる原因は何か

■空家等の管理に、行政がどこまで介入すべきか（n=996）

「積極的に介入すべき」が(48.3%)、次いで「所有者等自身による管理が前提であるため、それを促す介入にとどめるべき」が(41.7%)となっている。

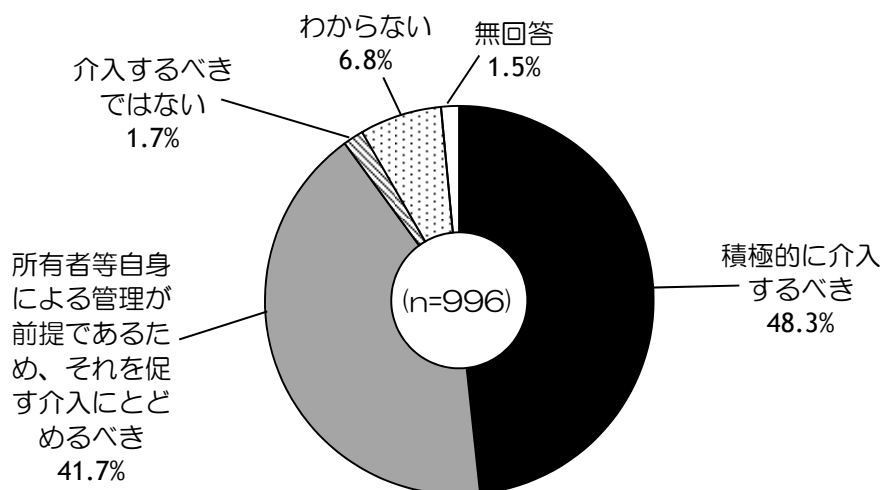


図 52 行政がどこまで介入すべきか

【大気環境】について

■市の大気測定を知っているか (n=996)

「測定していることも、測定局の場所も知らない」(51.9%)が5割以上を占め、次いで「測定していることは知っているが、測定局の場所は知らない」(43.4%)、となっている。

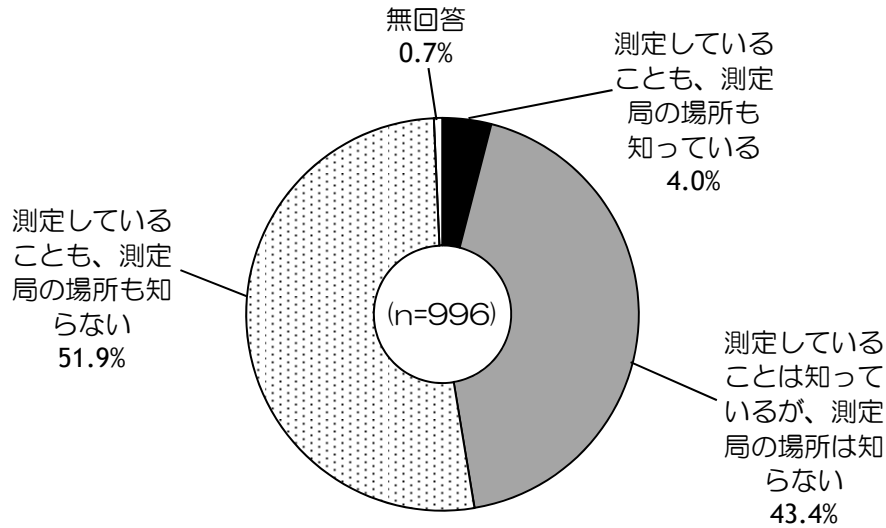


図 53 市の大気測定を知っているか

■測定結果の公表について (n=996)

「現状のままでよい」(64.6%)が6割半ばを占め、次いで、「速報値でよいので、公表の頻度、早さを高めるべき」(27.4%)となっている。

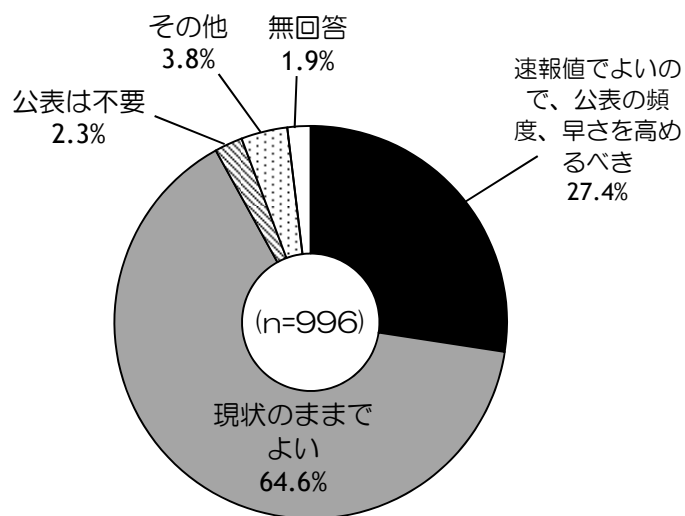


図 54 測定結果の公表について

■測定項目について (n=996)

「環境基準の達成状況に応じて見直すことがよい」が(35.6%)を占め、最も高い割合となっている。次いで、「現状のままでよい」(32.4%)、「東京都に合わせるとよい」(27.5%)の順となっている。

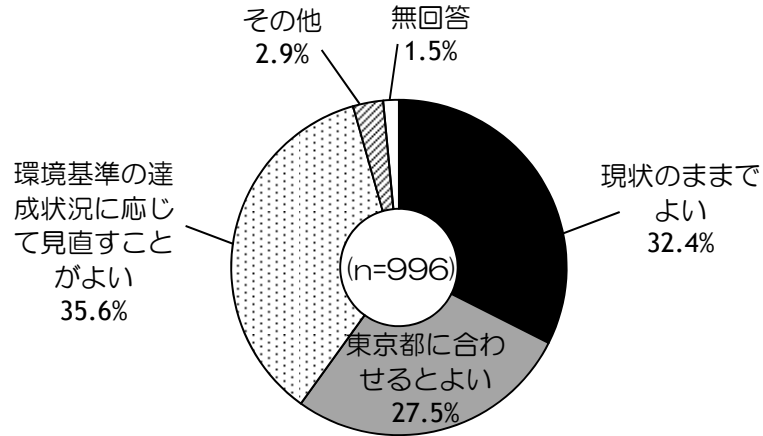


図 55 測定項目について

■測定の必要性について (n=996)

「経年変化を見るために、現状を維持して継続したほうがよい」が(75.0%)を占め、高い割合となっている。次いで、「状況に改善が見られ、東京都が測定しているのであれば、市の測定はやめてよい」(11.8%)の順となっている。

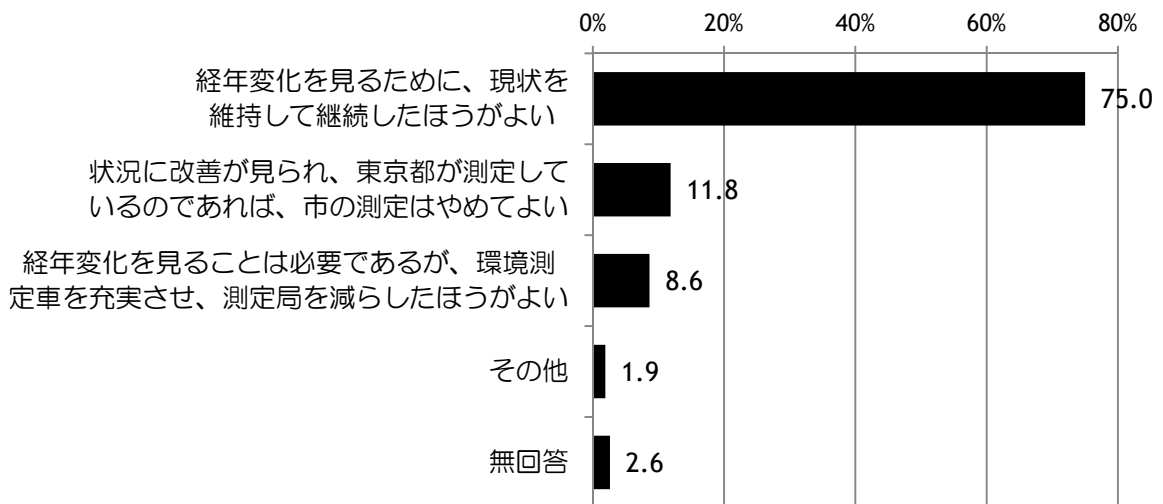


図 56 測定の必要性について

【府中基地跡地留保地の活用】について

■府中基地跡地留保地の存在を知っているか (n=996)

「よく知っている」(12.3%)と「存在は知っているが、詳しいことは知らない」(50.5%)を合わせると、6割以上(62.8%)が存在を知っており、「知らない」は(35.9%)となっている。

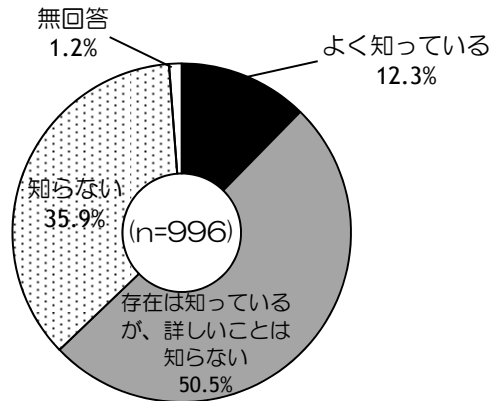


図 57 府中基地跡地留保地の存在を知っているか

■最適な活用方法として望ましいもの (n=996：複数回答)

「高齢者福祉施設」(40.0%)が最も高い。次いで「保育所」(32.1%)、「商業施設(スーパーマーケット、ショッピングモール等)」(28.5%)、「公園・緑地・広場」(26.8%)、「病院」(25.8%)となっており5項目が25%を超えている。

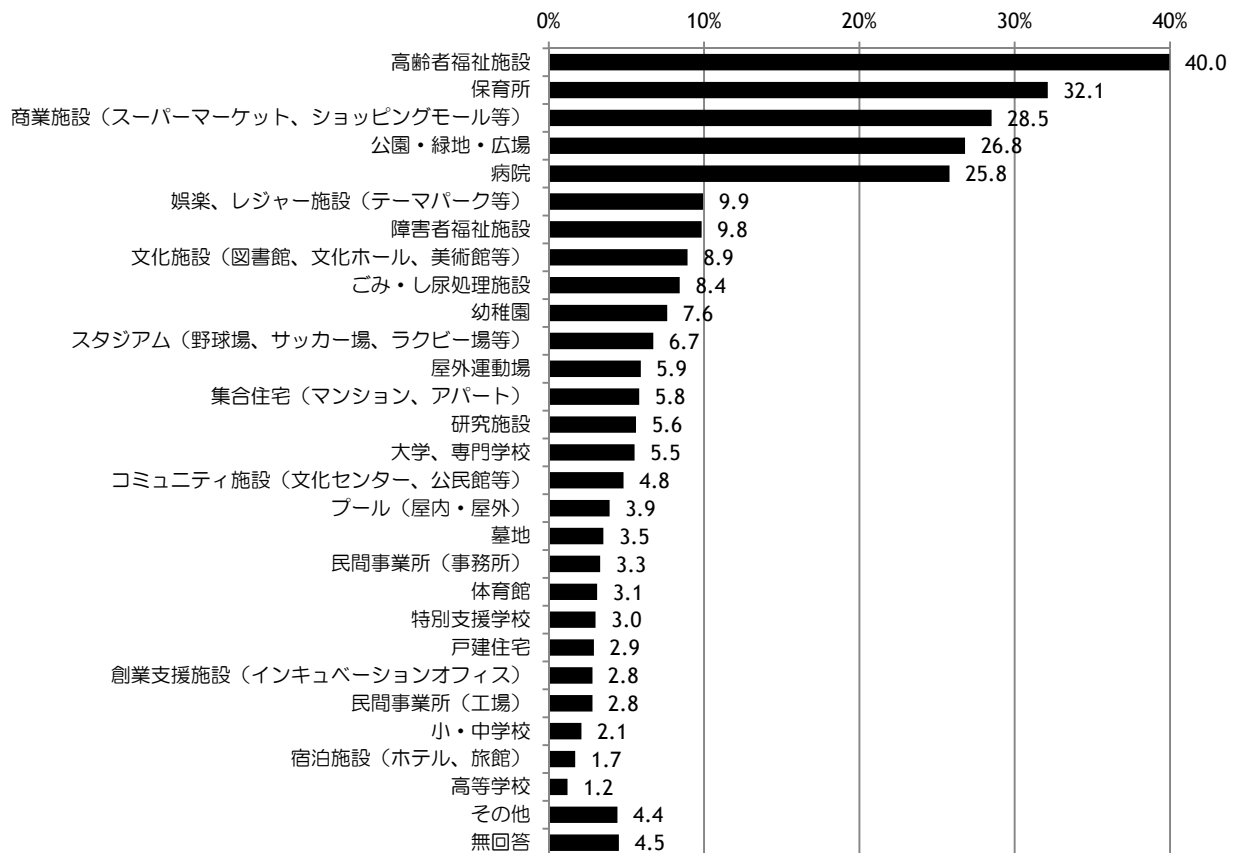


図 58 最適な活用方法として望ましいもの

第 48 回府中市市政世論調査（概要版）

平成 28 年 9 月

発行：府中市政策総務部広報課

東京都府中市宮西町二丁目 24 番地

Tel 042-366-1711

実施：株式会社 エアロ・フォト・センター

東京都立川市錦町 6 丁目 8 番 2 1 号

Tel 042-540-0750